

令和7年度 第1回板倉区地域協議会 次第

日時:令和7年4月22日(火)

午後6時～

場所:板倉区総合事務所

201・202会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 自主的な審議

- ・ 自主的審議事項について

4 報告事項

- ・ 令和7年度板倉区における主な事業について

5 そ の 他

- ・ 廃校施設の利活用に関するサウンディング型市場調査について

6 閉 会

地域フォーラムについて

(1) テーマ

- ① 健康福祉部会で実施予定のアンケートについて説明する。
- ② 後継者の育成（地域活動の担い手不足）
- ③ 地域の歴史と文化の共有（地域の歴史や文化を振り返り、次世代に伝える方法を考える）
- ④ 多様性と包摂性の促進（様々な住民が参加できるような環境を作る）
- ⑤ 地域協議会と活動団体等との意見交換会や、部会が実施するアンケート調査などとの関連を考え、テーマや開催時期を検討する。
- ⑥ 若者のふるさと離れに対応したまちづくり。人口減少に歯止めをかける。
- ⑦ 農業問題について。特に当区について後継者の問題や大規模経営、企業の参入による田んぼの管理などの多くの問題をかかえている。各農業に関係する個人、団体に意見を求める場を設けてみては。
- ⑧ 上越市、板倉区在住の方に向けて、心にのこるイベントや意見交換、町内会長活動団体との意見交換の実施
- ⑨ 地域協議会合同研修会の更なる活用について
- ⑩ テーマを事前に配布し、町内会の役員などの意見をまとめる。

(2) 実施方法

- ① 質問や意見は、当日ではなく後日いただいて回答する。重要な案件は、広報等で掲載する。
- ② キーノートスピーチ（基調講演）、ワークショップ
- ③ 基調講演、パネルディスカッション
- ④ 参加者が意見を出し合えるワークショップ形式を取り入れる。
- ⑤ 町内会長連絡協議会と意見交換し、地域協議会の各部会による方向性を確認する。
- ⑥ 人口流出現象への対策を実施している市町村の取り組みを紹介してもらい、グループごとにワークショップ等板倉区での取り組みを考える。
- ⑦ 全体会議
- ⑧ 基調講演とワークショップ
- ⑨ 年1回の合同研修会(中郷、清里、板倉、牧)の開催方法の再考。協議員会員参加による合同研修会の他、各地区代表者による情報交換会を兼た研修会の開催など。
- ⑩ グループ単位でワークショップを実施する。

(3) その他

- ・ 見学した北部体育館について、板倉北部工業団地の企業の責任者等との意見交換が必要なのではないか。
- ・ 各種団体において、役員のなり手がいないことを実感している。
- ・ 地域コミュニティの一体感が希薄化、無関心になっている。
- ・ 何かをするのにリーダーとなる人が少ない。
- ・ 昨年 11 月の牧区（深山荘）での合同研修会に参加し、板倉区以外の地域協議会の活動状況などが分かり参考になった。

令和5年度

持続可能な地区別まちづくり支援事業

地区別まちづくり住民ワークショップ 報 告 書



令和6年3月

上越市創造行政研究所

目 次

1 はじめに	1
2 持続可能なまちづくり支援事業の概要	2
3 年間プログラム	3
4 実施体制	3
5 実施方法	4
第1ステップ＝「人口分析」	
第2ステップ＝「地元関係図」4	
第3ステップ＝「住民 WS①」～「地元天気図」づくり	
第4ステップ＝「住民 WS②、③」～「アイデア出し」	
6 活動報告	6
第 1 回活動報告	
第 2 回活動報告	
第 3 回活動報告	
第 4 回活動報告	
成果発表会	
7 参考資料	48

1 はじめに

近年、人口減少や高齢化が進む中、地域コミュニティの維持や生活支援、地域内外の交流など、様々な地域課題への対応が求められています。そのためには、人口の安定化をはじめ、経済の面においても、環境の面においても、地域内外の多様な人材が、多様な働き方によって交流・定住することにより、持続可能なまちづくりを進めることが重要と考えています。

そこで、今年度大島、浦川原、牧の3区をモデル地区に選定し、地域の現状・課題を整理し、地域が持続可能であるための将来像を考え、定住促進に向けた課題やアイデアを検討するための住民ワークショップを行ってきました。

この報告書では、住民自らが人口診断や定住推進策を試みる住民ワークショップの実例と、人口シミュレーションによる地域人口の「人口安定化シナリオ」（定住目標）の設定や、「地元関係図」・「地元天気図」による現状把握から定住を実現していく地域の進化形のあり方、定住促進の取組を考える上でのポイント等、定住戦略を策定するための考え方、手法等をまとめています。ぜひ、参考にさせていただき、それぞれの地域で活用いただくことを願っています。

藤山 浩 上越市創造行政研究所 所長

1959年、島根県益田市生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士（マネジメント）。島根県中山間地域研究センター等を経て2017年に一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所を設立し、所長を務める。2023年4月から上越市創造行政研究所長を兼任

総務省地域力創造アドバイザー他、国・県委員多数。専門は、中山間地域政策、未来社会論、地域計画、地域分析（人口・経済）、地域づくり支援。著書に「田園回帰1%戦略」、「循環型経済をつくる」、「小さな拠点をつくる」、「日本はどこで間違えたのか」など



2 持続可能なまちづくり支援事業の概要

目的

- ・持続可能な上越市をつくるため、環境・経済・社会いずれの面においても住みやすいまちをつくり、人口の安定化を目指す。
- ・市内各地区での持続可能なまちづくりに向けて、地域住民と行政職員が協働によって地域の現況を学習し、課題を整理し、課題解決策を検討・実施するプロセスを浸透するため、調査研究機関としての伴奏型支援により地区別まちづくりのモデルを構築することを目的とする。

本事業の特徴

① 定住人口の確保など、持続可能な地域づくりを目標とする

- ・人口、経済、社会、環境的側面において持続可能な状態とその道筋を描くことを目的とする。
(地域自治はあくまでもその手段として捉える)
- ・そのため、中長期的な視点、バックカスティングの思考を取り入れる。
(現状の延長線上で考えるのではなく、理想の姿を描いた現状と改善箇所の検討、その実現に向けたアイデアの検討などを行う。)

② 地域経営のプロセスに基づいて設計する

- ・地域づくりの課題検討(CA)、方針づくり(P)、実施(D)のサイクルをつくる。

③ 学び合いによる共進化を力にする

- ・老若男女・様々な立場の人々が参加し、前向き思考ができるようメンバー選定に最大限配慮する。
- ・市に対する要望陳情ではなく、地区同士の学び合いによる共進化を促進する。

④ 人材・組織づくりを念頭に置く

- ・職員に対しては、事業の推進に必要な基本的な考え方や手法についての研修を実施するほか、資料の共同作成を通じたOJTなどにより、能力強化を図る。
- ・地域住民に対しては、具体的な取組課題を地域住民と共に抽出することにより、結果としての人材発掘や組織形成を目指す。
- ・このことに対し、自治体シンクタンクとして伴走支援を行う。

3 年間プログラム

日 時	会場	内 容
職員研修 10月20(金) 9:30～ 11:30	浦川原地区 公民館	地域の人口分析と地元天気図の作成 ■座学 ■地域人口、就農人口の予測シミュレーション ■地元天気図作成のシミュレーション
3区合同 11月13(月) 18:30～ 20:30	浦川原地区 公民館	地域の現状を把握する ■藤山所長講演 ■人口安定化シナリオ、地元関係図の確認 ■地元天気図作成 ①現状課題編 定住推進に向けて、地区の強み、弱み、連携不足などの現状を「天気図」にまとめる
3区合同 12月11(月) 18:30～ 20:30	浦川原地区 公民館	地域の目指す将来像を考える ■地元天気図作成 ②課題解決編 課題を解決する地域ぐるみのつなぎ直しを具体的に「天気図」上に表現する ■具体的に取り組む3本柱の検討
地区別 1～2月	各区	定住を実現するためのアイデアを出しあう 具体的に取り組む3本柱及び可視化した地区の情報をもとに、取り組みを話し合い、出された案をとりまとめる
3区合同 3月10日(日) 13:30～ 15:30	浦川原 コミュニティ プラザ	地域の未来について語る 本年度の予測や分析、検討結果を報告。モデル地区同士で情報を共有するとともに取り組みの発表と意見交換を行う

4 実施体制

所 属	体 制	役 割
モデル地区 住民	大島・浦川原・牧区住民 36 人(各 12 人) ・各区ベテランチーム(50～70 代)6 人 ヤングチーム(20 代～40 代)6 人	ワークショップ参加
総合事務所	総合事務所職員 12 人(各区 4 人)	会場準備、住民サポート
藤山所長・ 上創研	4 人(各区担当制)	職員サポート (当日進行、事前・事後研修)

5 実施方法

第1ステップ＝「人口分析」

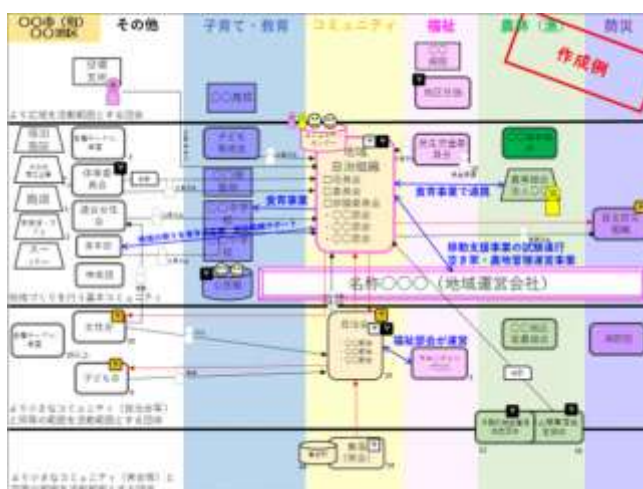
今のままでは、20代女性を中心とした人口の流出を十分に取り戻せていないために、人口減少と高齢化が急激に進行します。しかし、それぞれの地域自治体で年に現在人口の約1%の定住が実現すれば人口の安定化が見えてきます。現状や課題そして今後の推移を確かめ、その要因を考えます。そして人口安定化のためには実際にどのくらいの定住を増加させればよいか、シミュレーションし、「これならできる」と思われる定住増加目標を定めます。



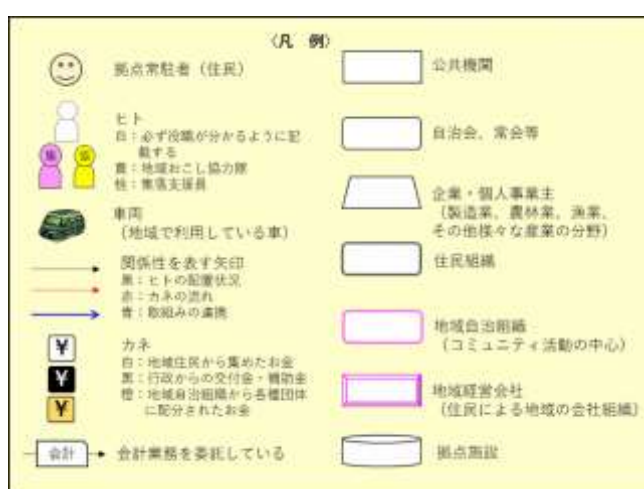
第2ステップ＝「地元関係図」の作成

様々な先行事例から、今後の地域の取り組みには、分野を横断した手法（「事業内容」、「お金の使い方」など）により、地域の仕組みも分野横断を可能にするものを目指する必要があります。

地域の仕組みを団体や人材の繋がり、お金の流れから明らかにする（＝見える化する）ことで、自分の地域の仕組みをどうしていきたいか（今の課題に取り組むためにはどうあれば良いか）を考えるための材料として活用します。



特定の地域について、団体・組織とその周辺を階層（縦軸）と分野（横軸）ごとに記載しそれらの関係性（ヒト・モノ・カネの関係）を地区内網羅的に図示するもの。



第3ステップ＝「住民WS①」～「地元天気図」づくり

地域自治区の「地元関係図」を基に、次世代の定住を実現していく上で、現時点での強み(＝高気圧)や弱み(＝低気圧)をまとめ、わかりやすく地域の課題と可能性を「地元天気図」としてまとめ、今後の定住実現の取り組みの方向を見出していきます。地域自治区ごとに、老若男女12人(男6、女6)の住民が集まって、話し合いを進めます。

①ヤング、ベテランのチームを
結成



②高気圧、低気圧、台風マーク
を貼っていく



③グループ発表で成果を
共有する



第4ステップ＝「住民WS②、③」～「アイデア出し」

- ・ 地域自治区ごとの人口分析や「地元天気図」を踏まえ、定住の実現に向け、地域の強みを生かし、弱みを補い、地域の人たちがいきいきと暮らすことができる具体的な取組(アイデア)を出し合い、まとめます。

地区別定住戦略の原案構成

- 人口分析
- 将来の地元天気図
- 取組の3本柱
- 具体的な取組(アイデア)案



第1回 活動報告

職員研修

10/20
(金)

テーマ 『地区まち W.S の運営手法』

開催しました

場 所: 浦川原地区公民館

参加者: 浦川原・大島・牧区総合事務所

職員 12 名

開催内容

～持続可能な地区別まちづくり支援
事業モデル地区における職員研修～

ワークショップの進め方や住民の主体性を高める手法、ポイント等を得得します



研修の流れ

9:30 講義（講師：藤山所長）

- ・将来人口・就農推計の必要性と推計方法
- ・地元天気図(現状・未来)の作り方と活用
- ・具体的な取組の検討視点(3 柱のたて方)
- ・住民の主体性を高めるための手法やポイント



10:00 グループワーク

各区にわかれて、地域人口・就農人口の予測シミュレーション、地元天気図(現状)の作成演習行いました。



11:00 成果発表

代表者が意見の発表を行いました。



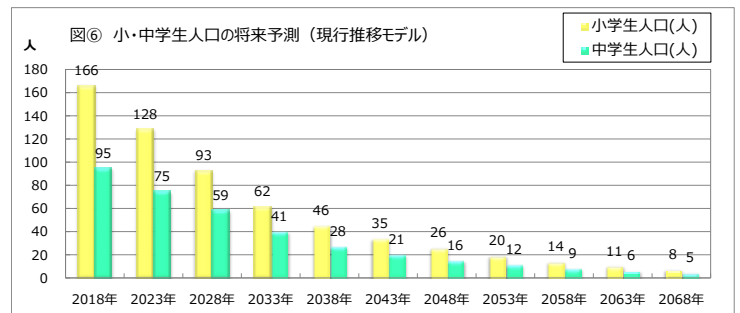
浦川原区

○定住増加目標:11 世帯 26 人/年 現在人口の0.9% (111 人に 1 人)

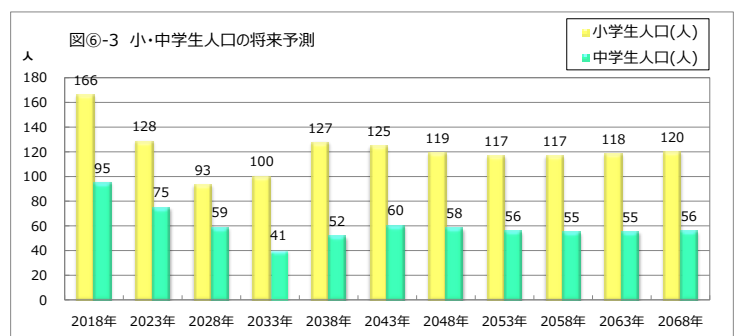
内訳:20 代男女 4 組+30 代夫婦 4 組+60 代夫婦 3 組

※出生率向上と流出率抑制とも連動条件

①将来予測<現状推移シナリオ>



②人口が安定する組み合わせのシナリオ



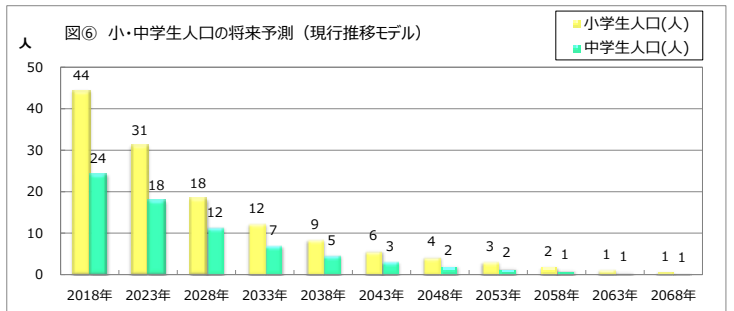
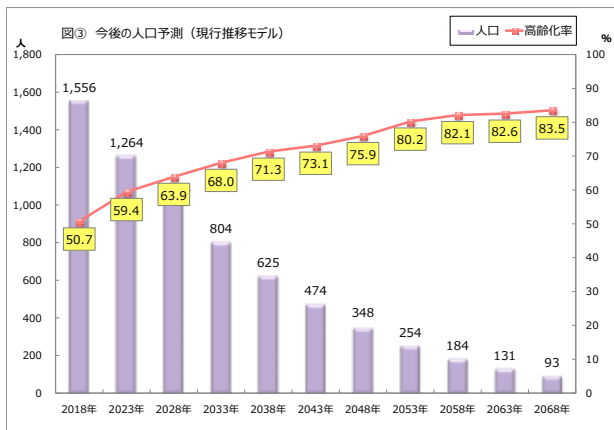
大島区

○定住増加目標:6.5 世帯 15 人/年間 現在人口の1.2% (83 人に 1 人)

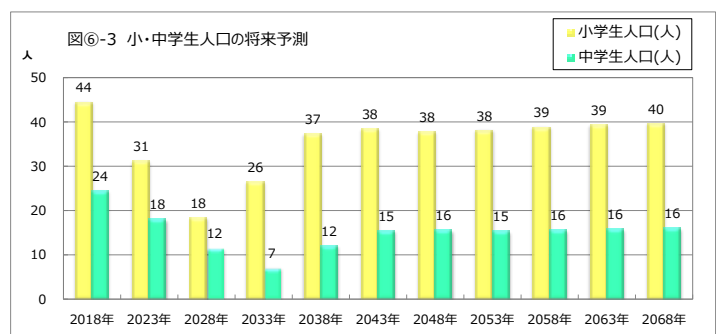
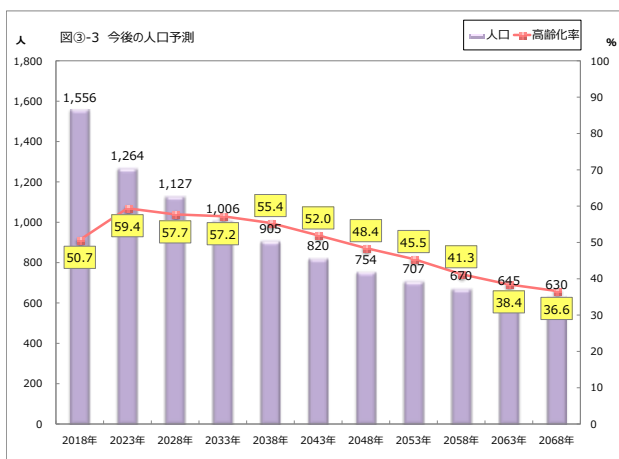
内訳:20 代男女1組+20 代女性 2 人+30 代夫婦 2.5 組+60 代夫婦 3 組

※出生率向上と流出率抑制とも連動条件

①将来予測<現状推移シナリオ>



②人口が安定する組み合わせのシナリオ



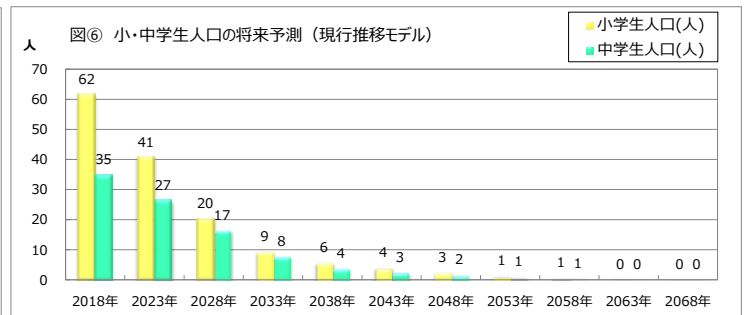
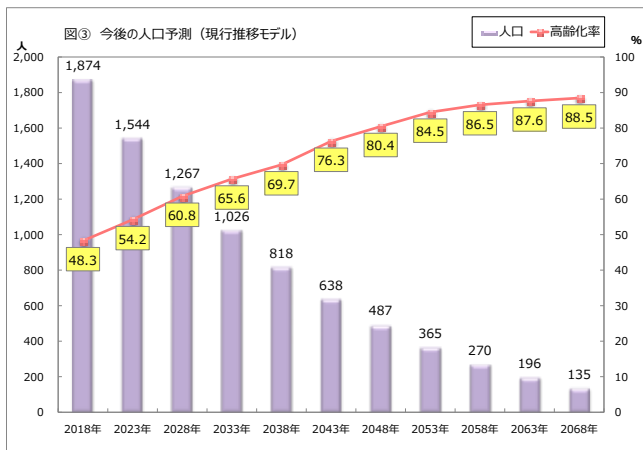
牧区

○定住増加目標：5世帯13人/年 現在人口の 0.8% (119人に1人) を目標

内訳:20代男女1組+20代女性1人+30代夫婦2組+60代夫婦2組)

※出生率向上と流出率抑制とも連動条件

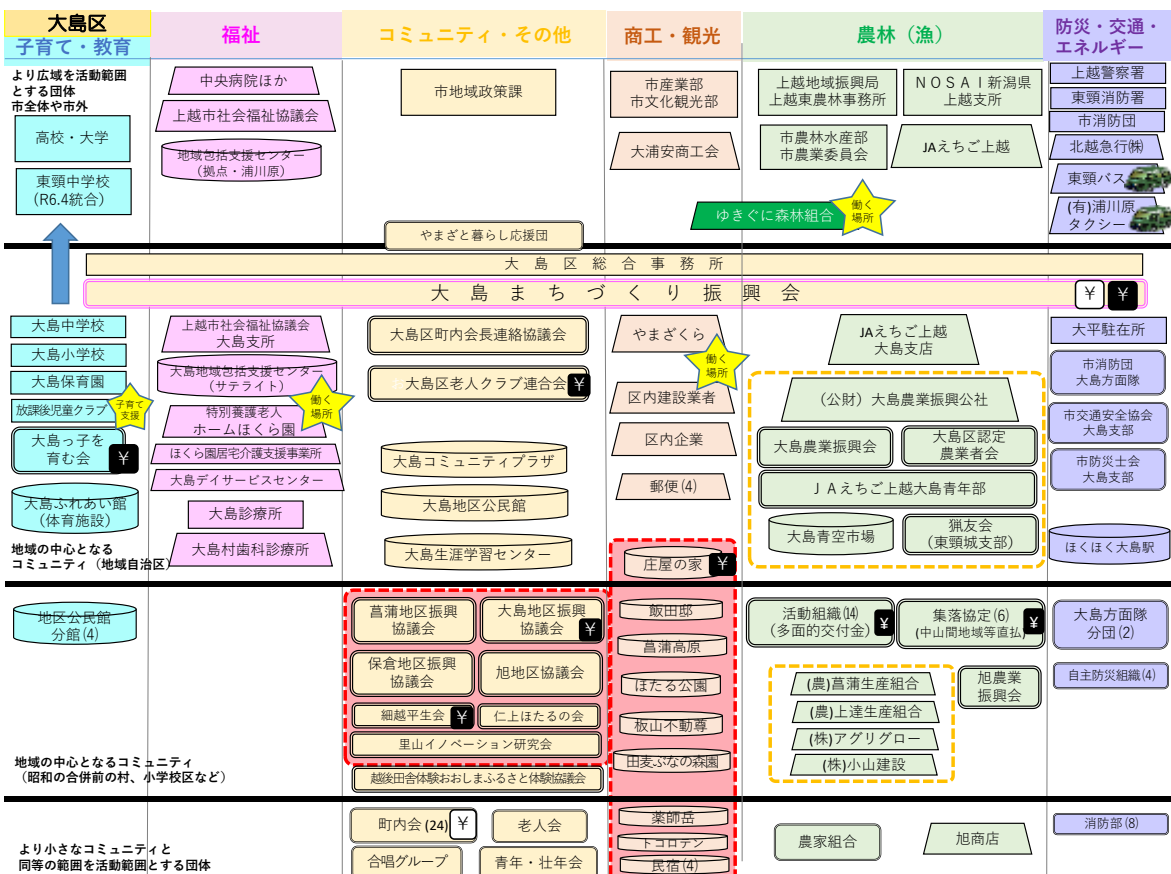
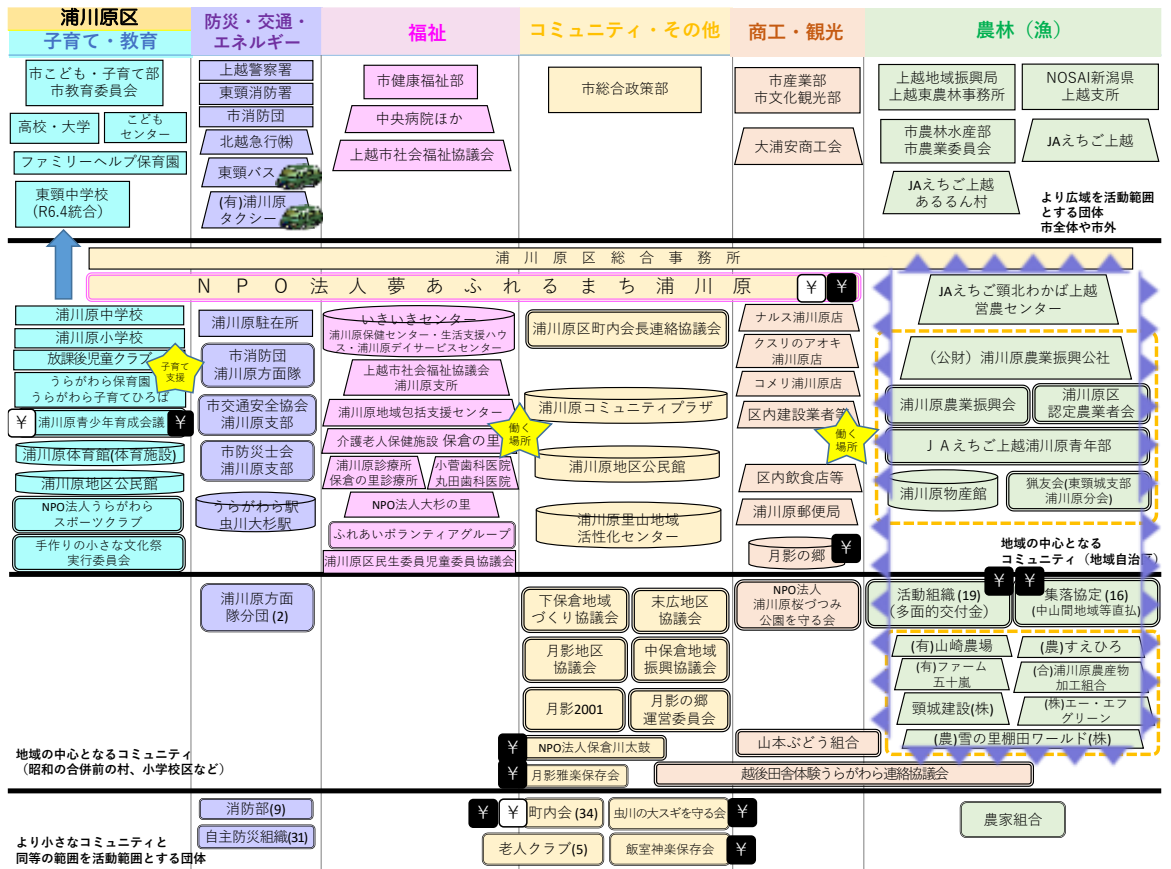
①将来予測<現状推移シナリオ>

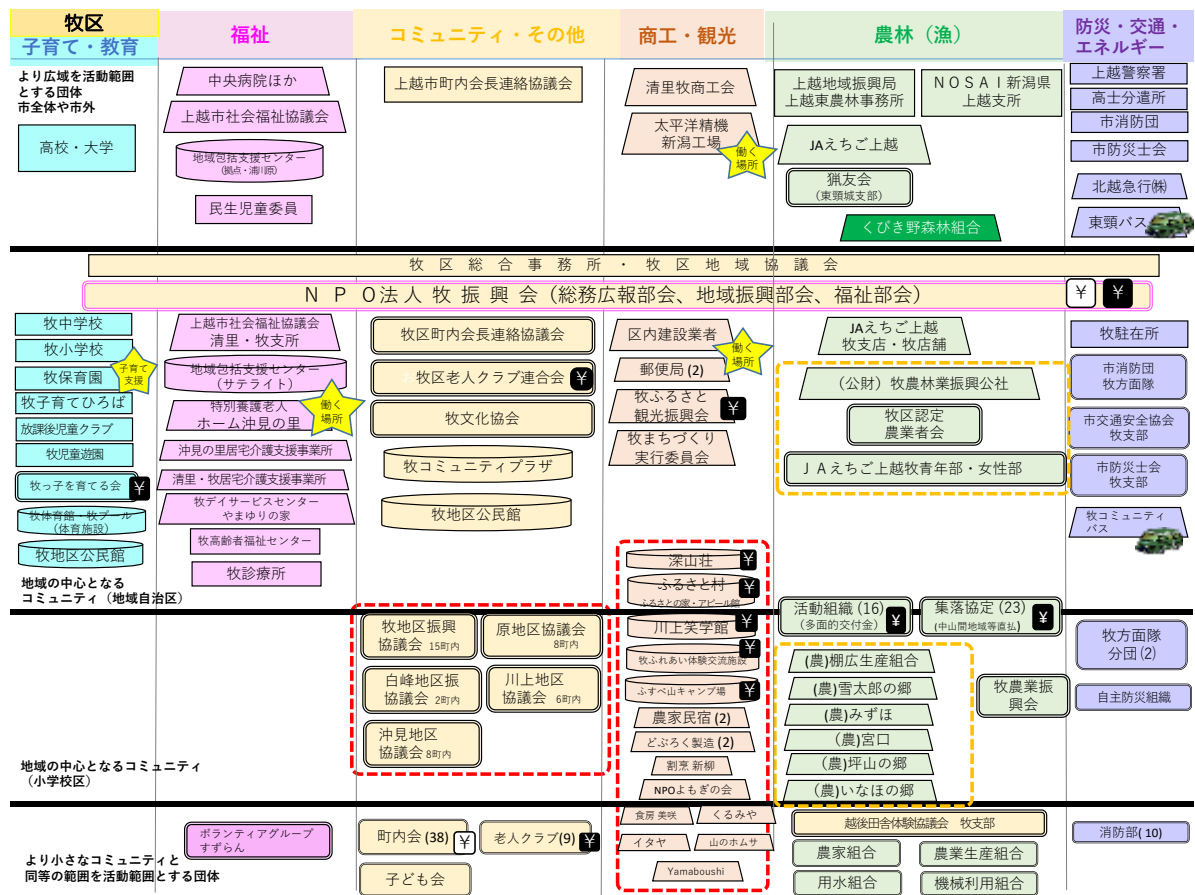


②人口が安定組み合わせのシナリオ



地元関係図





第2回 活動報告

地区まち住民ワークショップ

テーマ 『地域の現状を把握する』

場 所: 浦川原地区公民館

時 間: 18時30分から20時30分

参加者: 浦川原・大島・牧区市民 36人

11/13
(月)

開催しました

開催内容

～「地元天気図」により地域の現状を整理する～

地域の強み・弱みや連携の良さ・弱さを「地元関係図」上に「天気図」として表すことで、地域の現状を見える化します。



藤山所長による講義

ワークショップの流れ

18:30 概要説明

ワークショップの目的とプロジェクトの経緯について説明しました。

18:40 講義(講師: 藤山所長)

各地域の人口分析の結果、農村の地域資源を活用した定住推進の具体策を、全国事例も交えて藤山所長から紹介しました。

19:15 グループワーク

各区2グループ(ヤング・ベテラン)計6グループにわかれて、地元関係図を使ったグループワークを行いました。



20:05 成果発表

各グループの代表者が意見の発表を行いました。

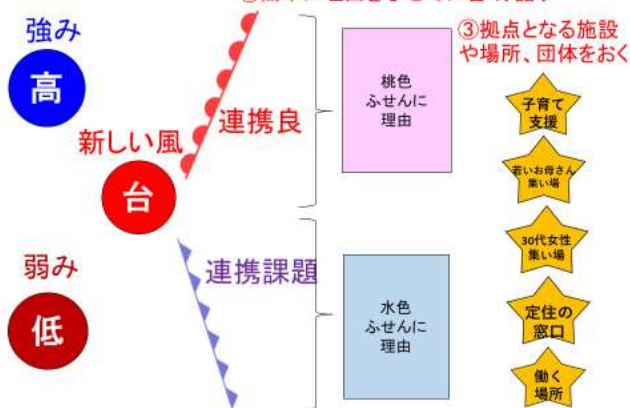


20:30 閉会

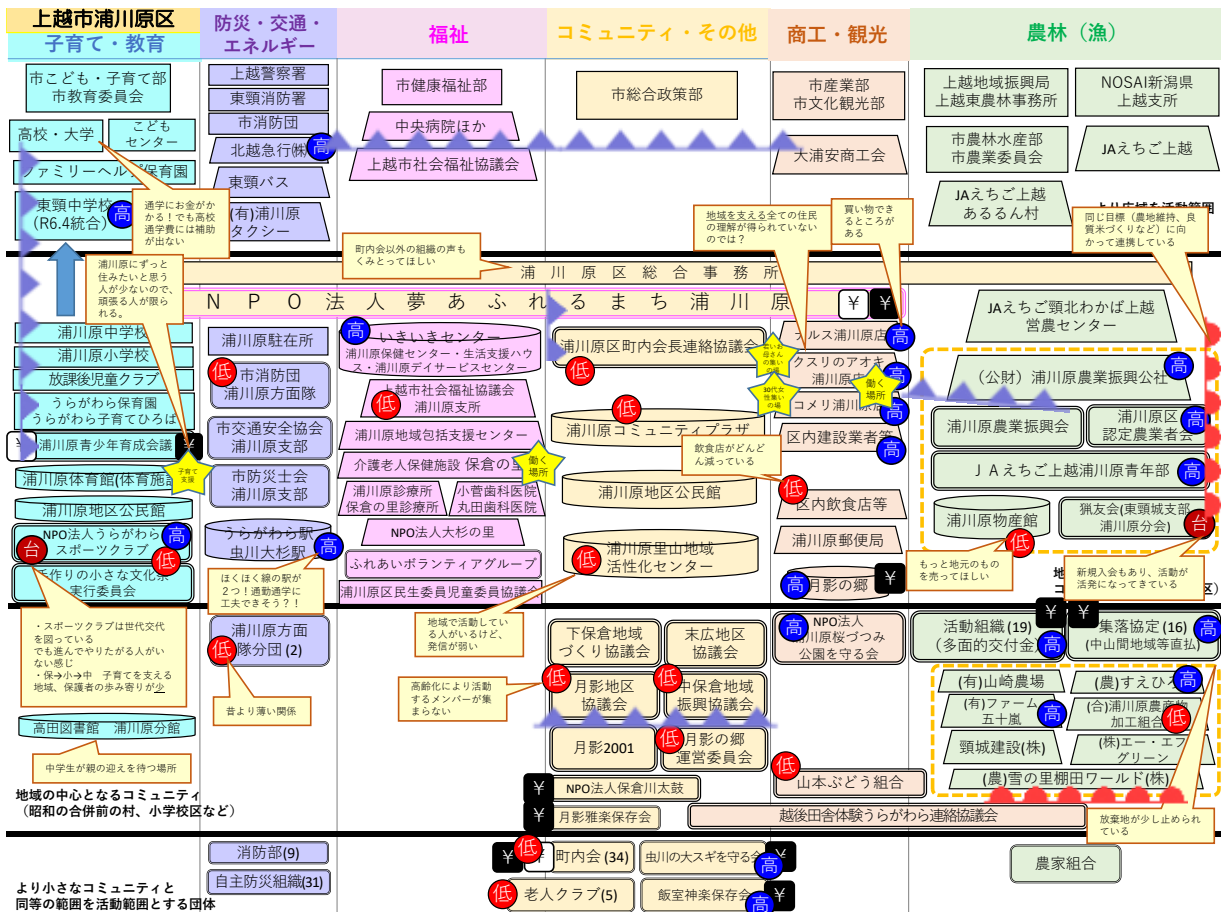
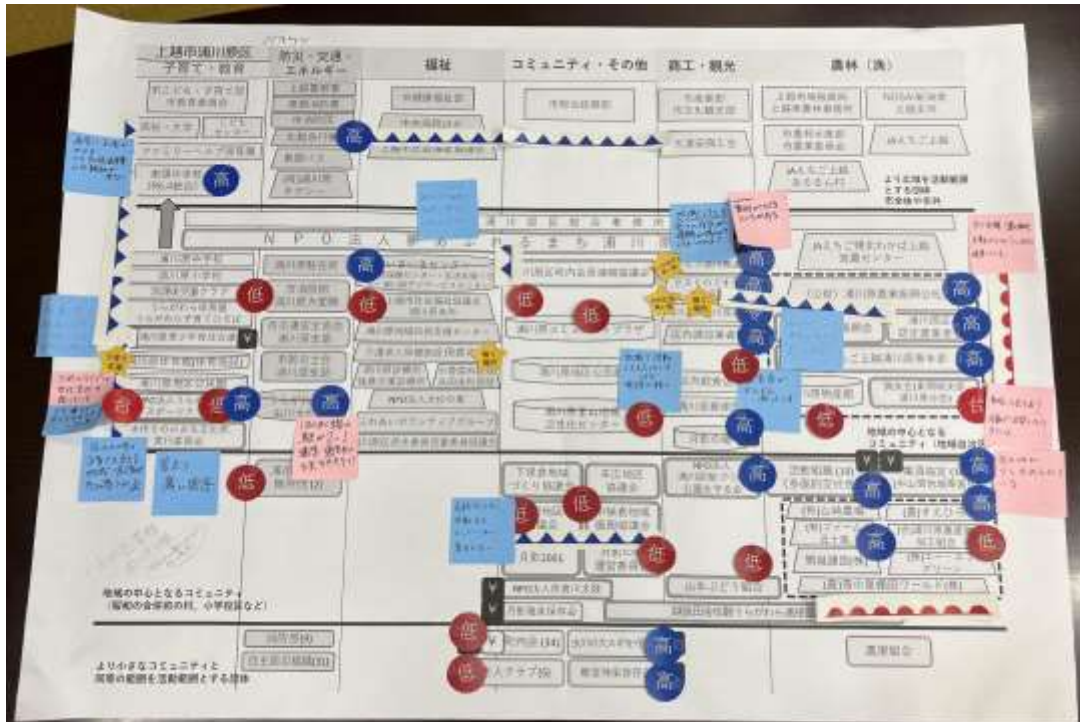
①まず、天気図マークを各自おく

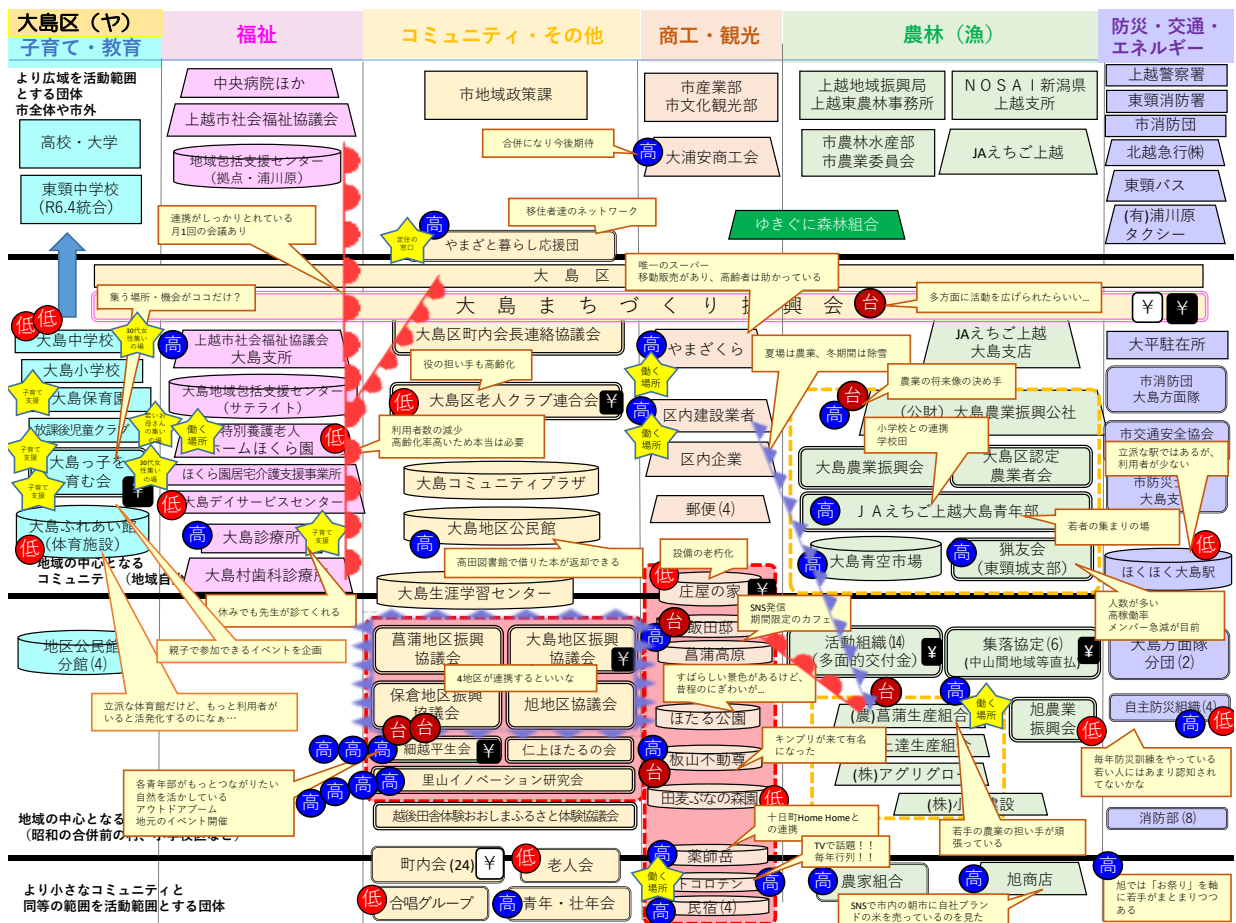
②簡単に理由をふせんに書く、話す

③拠点となる施設や場所、団体をおく

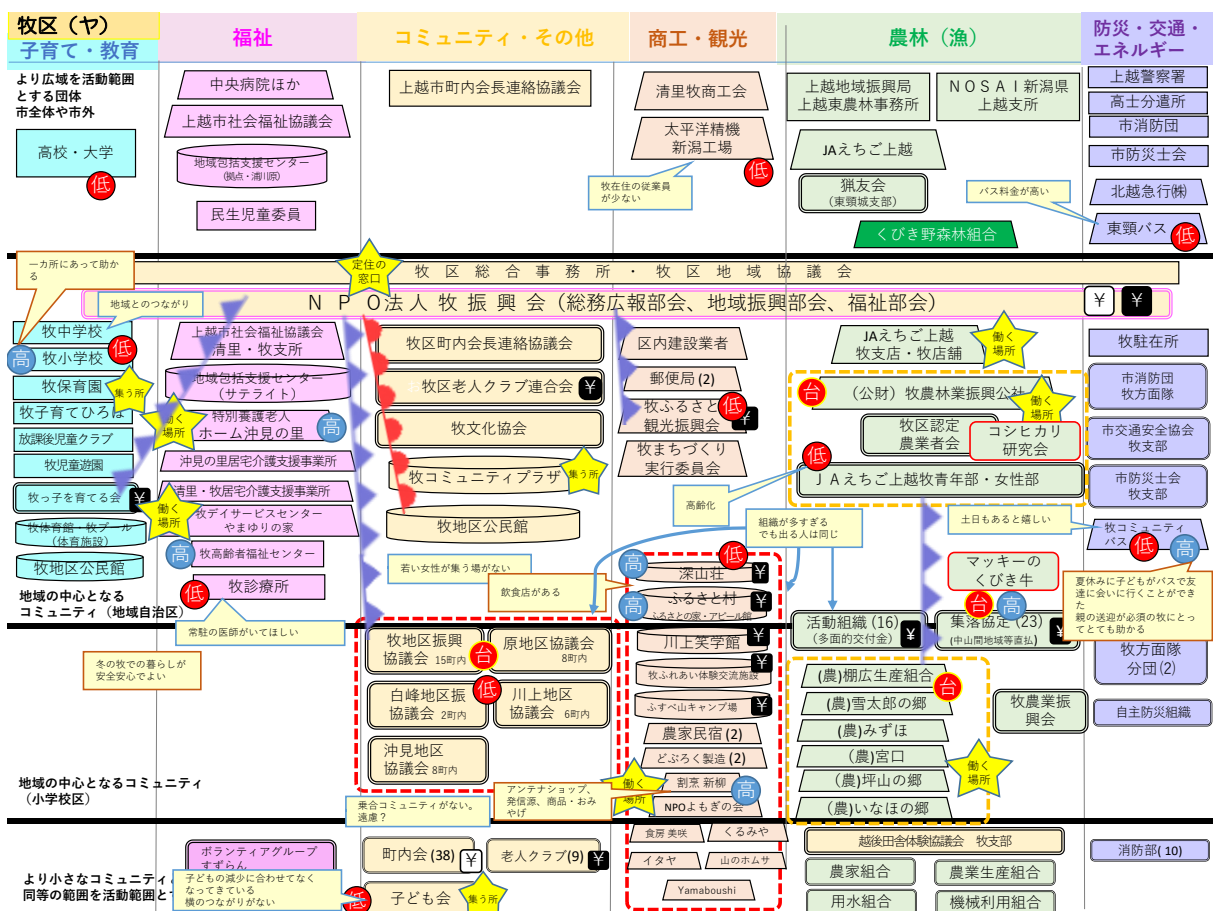
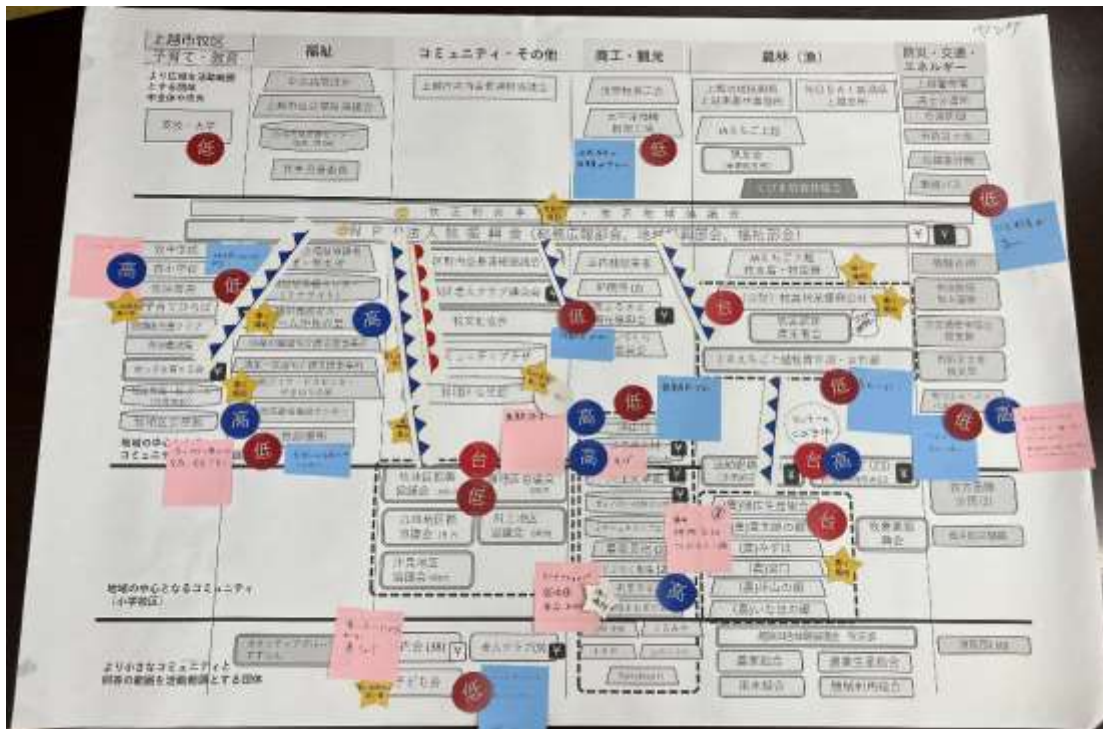


浦川原(ベテラン)

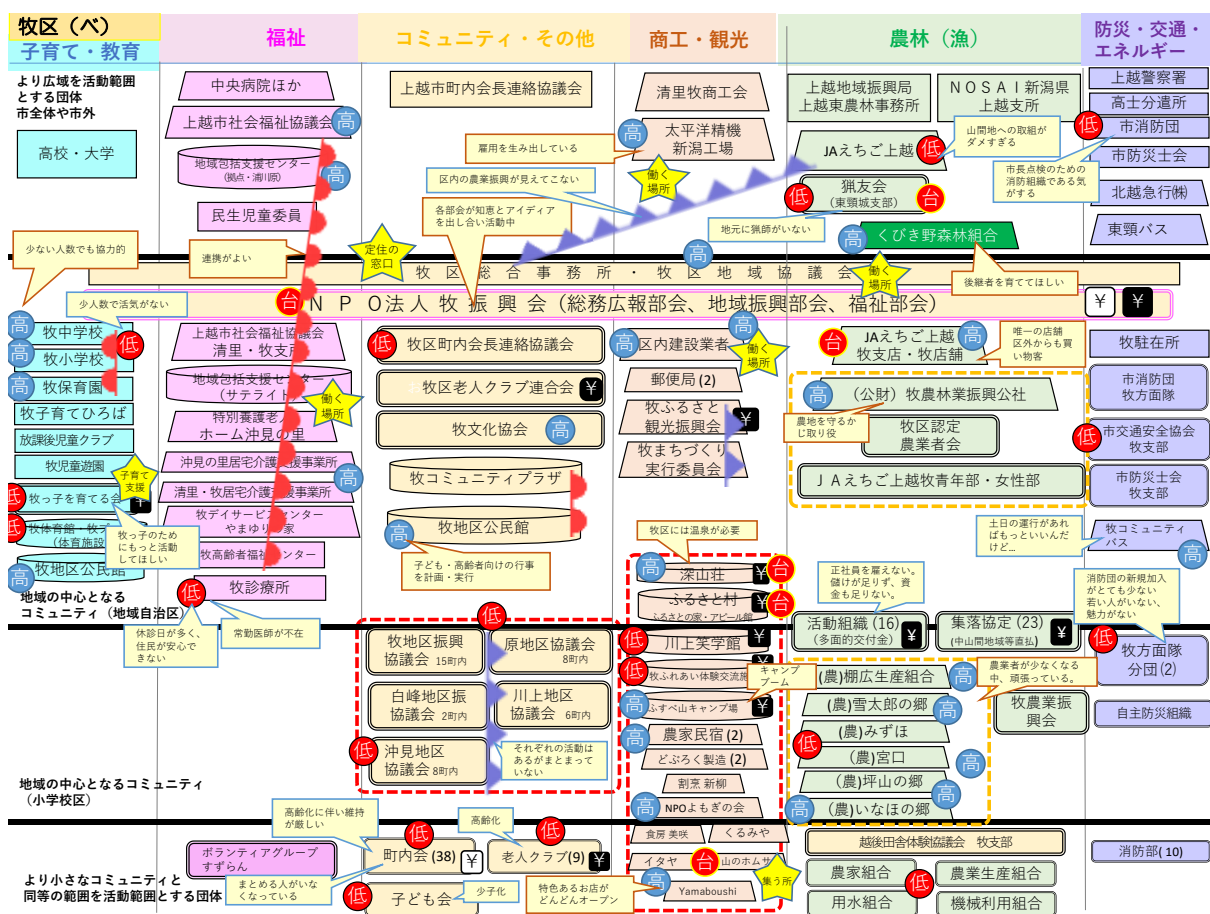
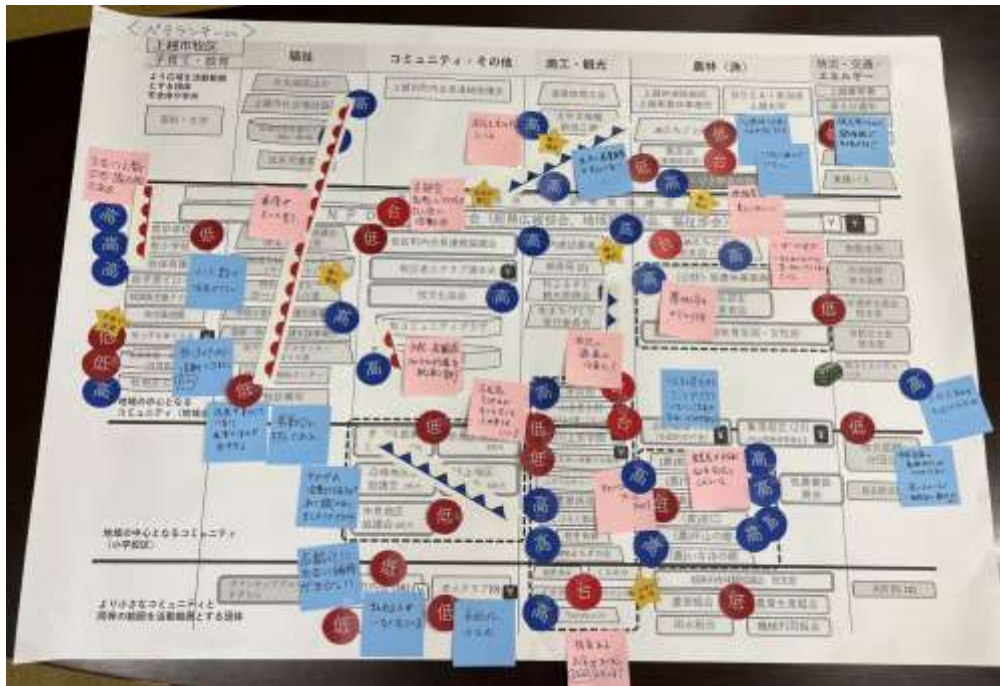




牧(ヤング)



牧(ベテラン)



第3回 活動報告

地区まち住民ワークショップ

12/11
(月)

テーマ 『地域の目指す将来像を考える』

場 所:浦川原地区公民館

時 間:18時30分から20時30分

参加者:浦川原・大島・牧区市民36人

開催しました

開催内容

～ 次世代の定住を実現する取組の
3本柱を考える ～

定住の実現に向け、地域の強みを生かし、弱みを補い、地域の人たちがいきいきと暮らすことのできる「将来の地元関係図」としてまとめます。

①定住実現のため、何とかしたい、もっと盛り上げたいと思う組織はどこか？

②そのためにはどうすればいいか？



グループワークの様子(全体)

ワークショップの流れ

18:30 はじめに

前回のふりかえり、今回のグループワークの進め方や藤山所長からグループワークのアドバイス(定住実現につながる取組事例の紹介)がありました。

18:55 グループワーク

各区2グループ(ヤング・ベテラン)計6グループにわかれて、地元天気図を使ったグループワークを行いました。



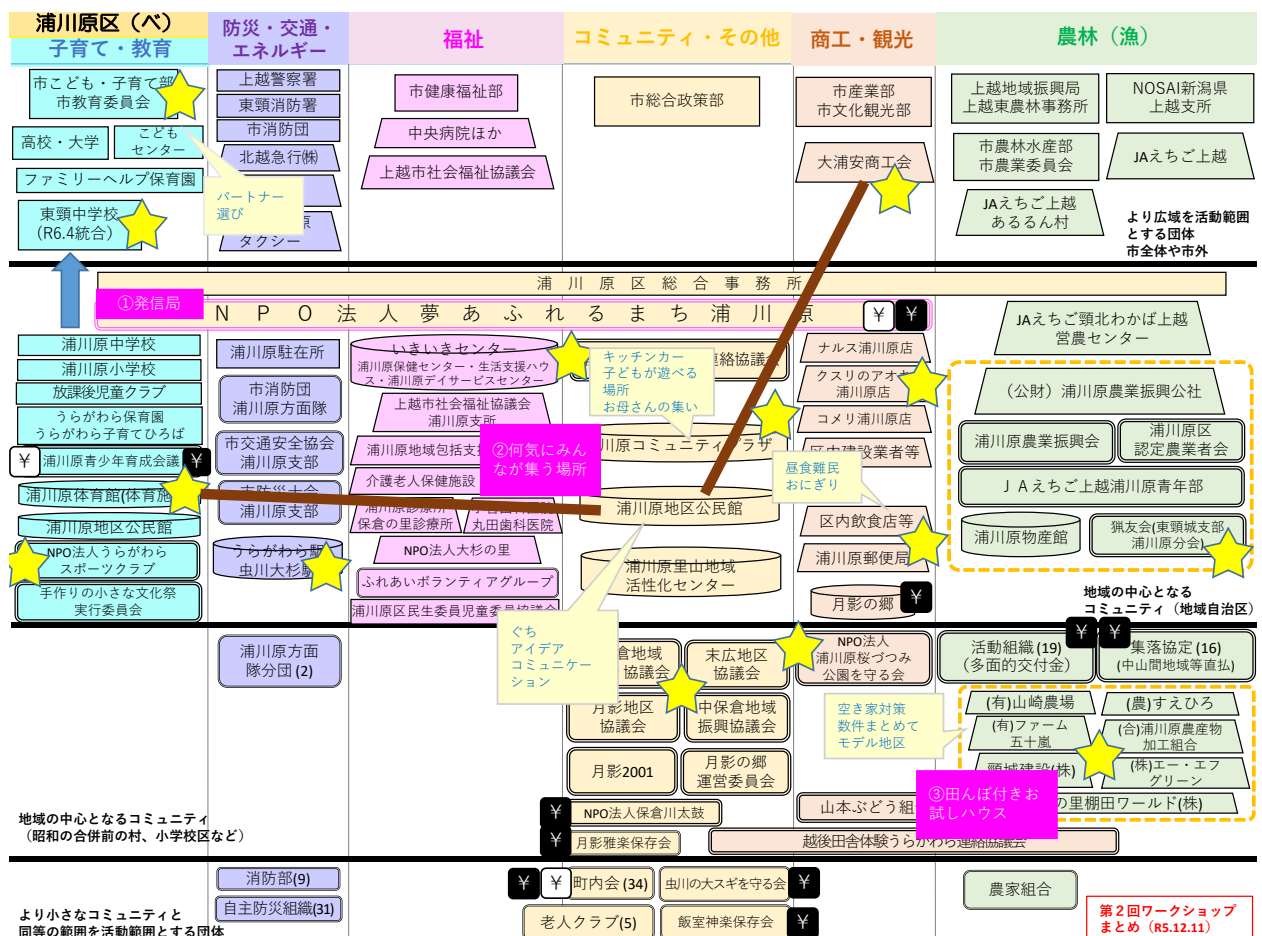
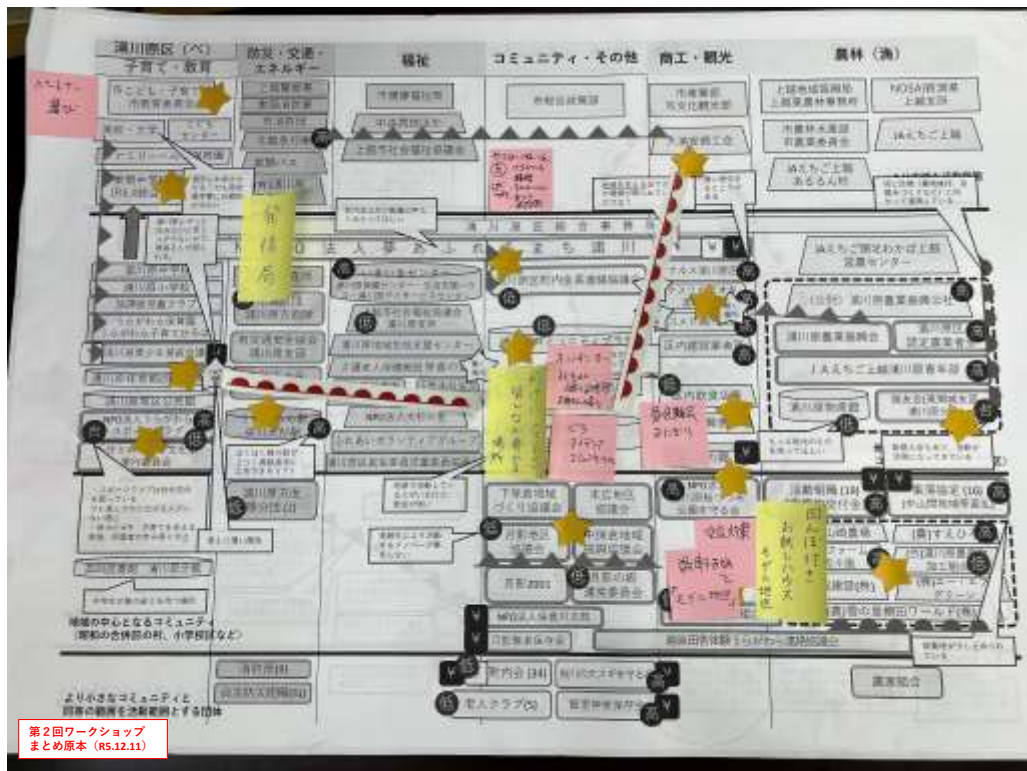
20:05 成果発表

各グループの代表者が意見の発表を行いました。

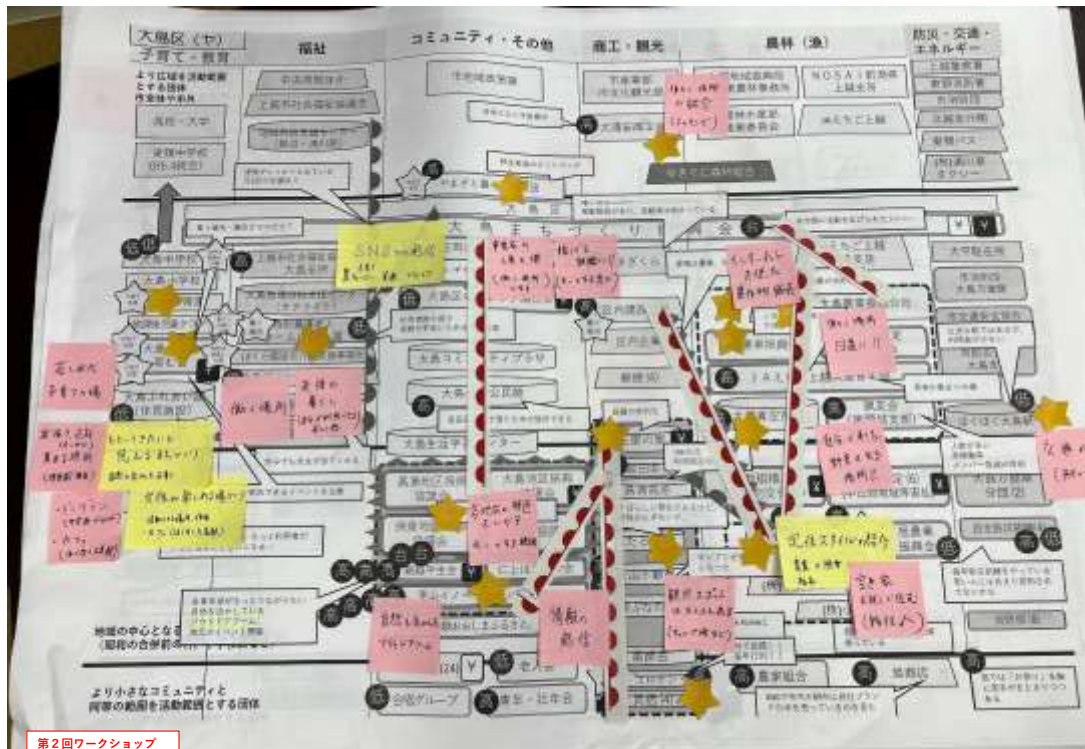


20:30 閉会

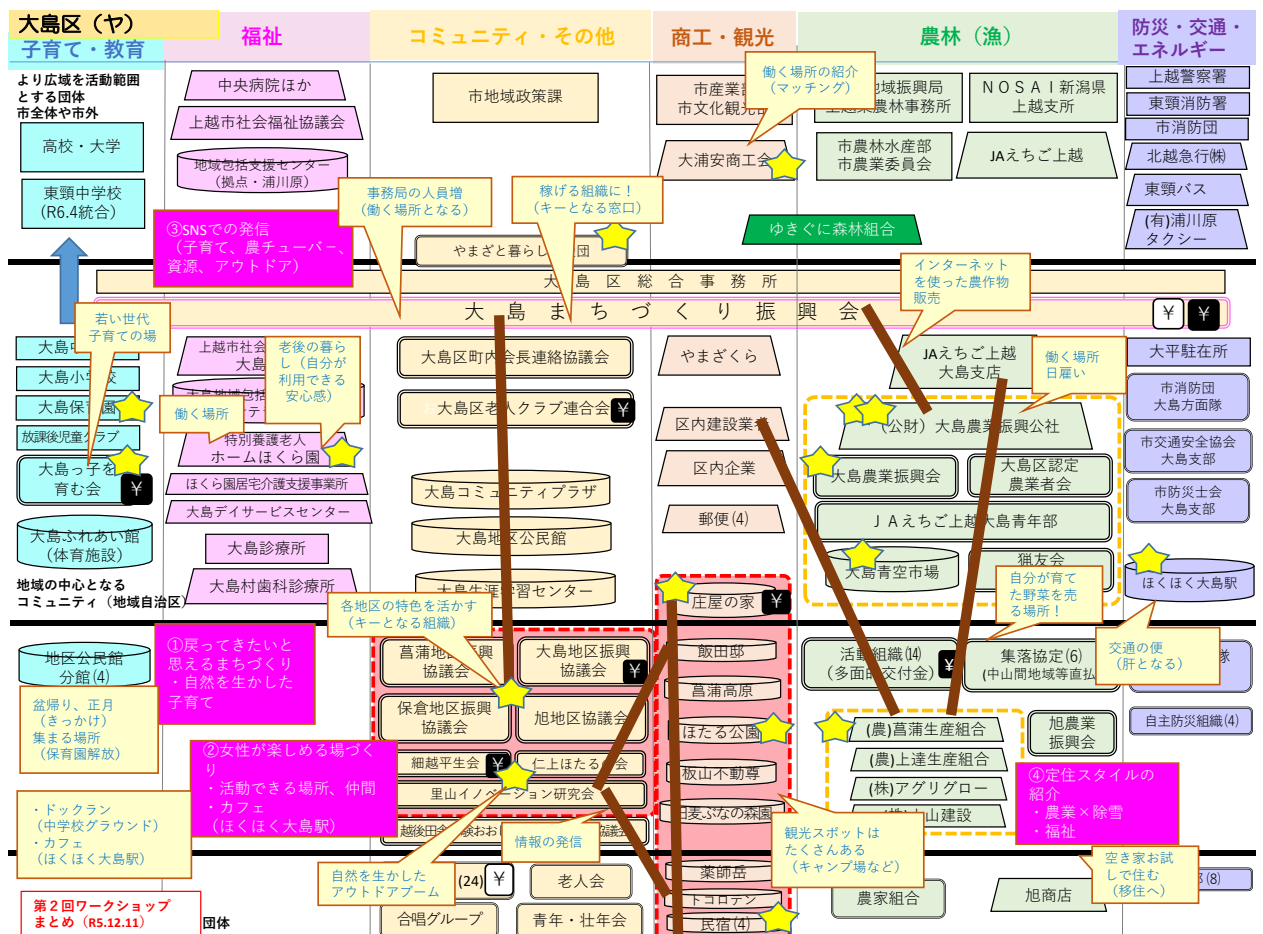
浦川原(ベテラン)



大島(ヤング)

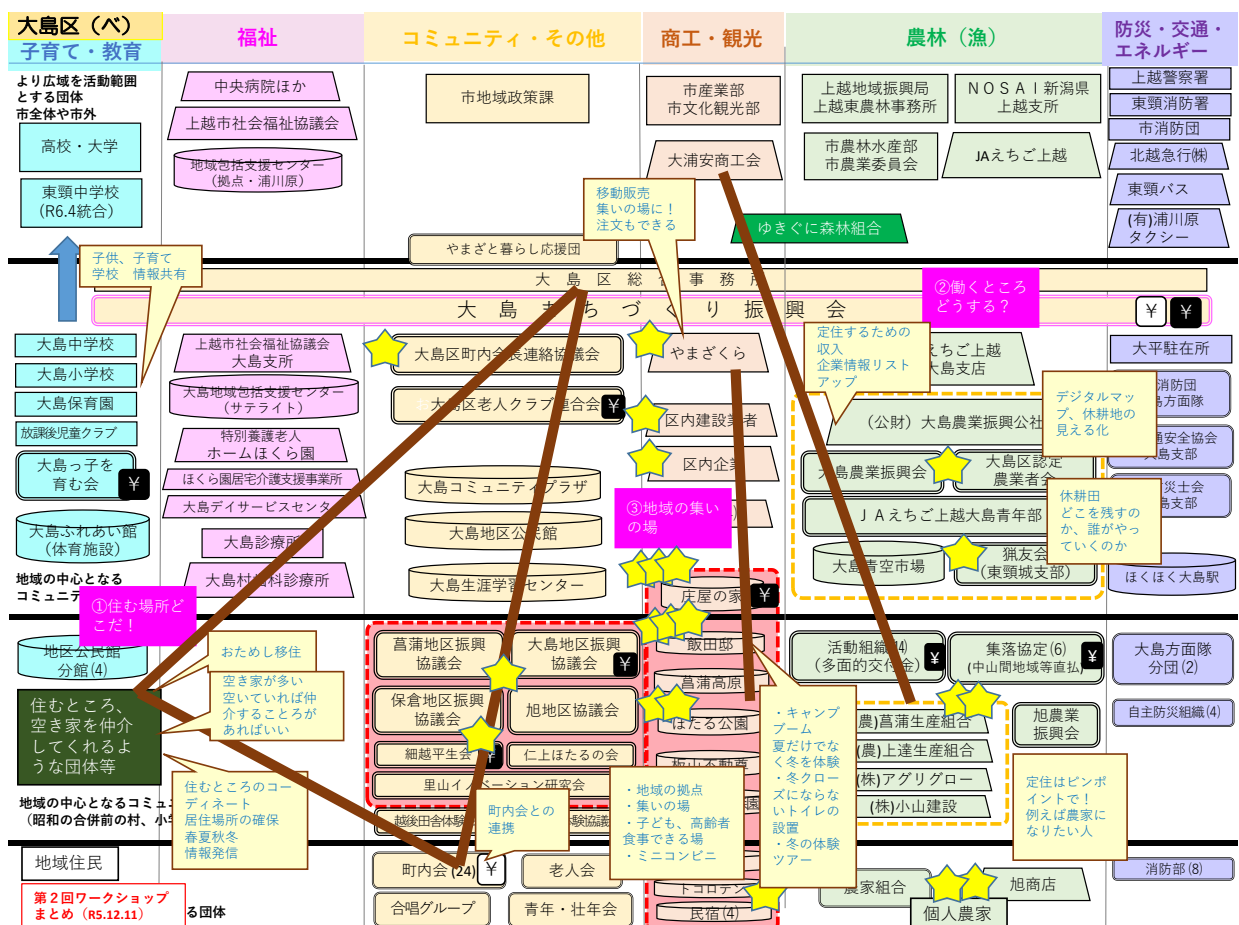
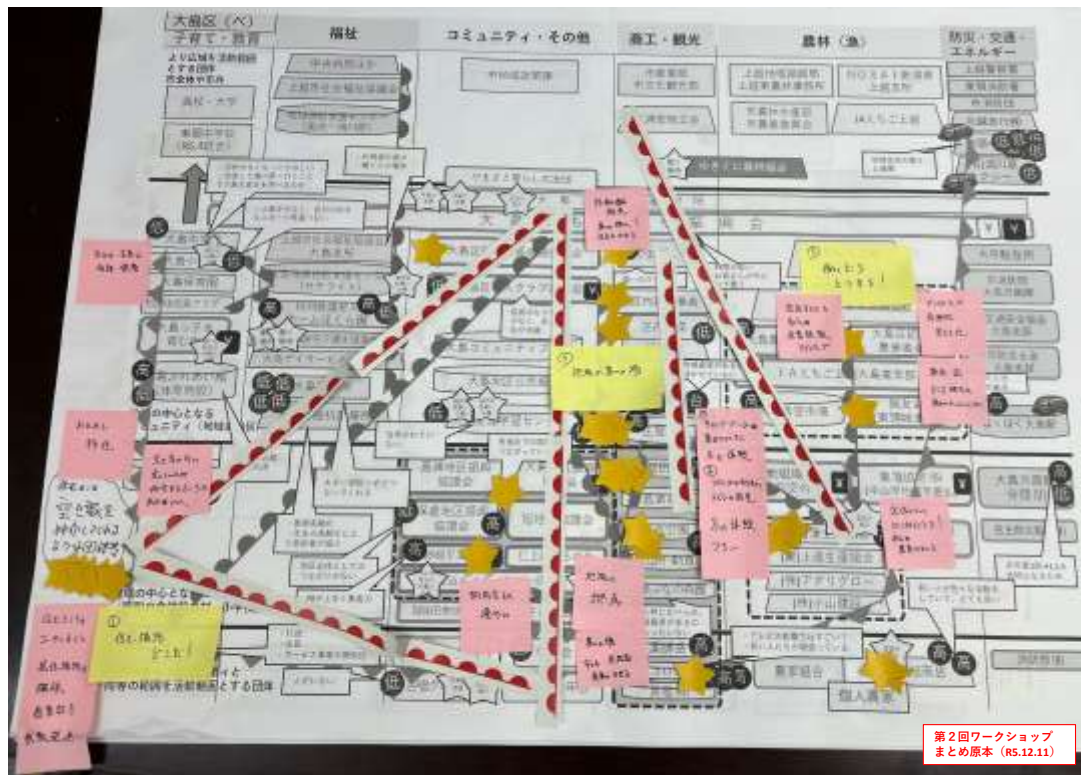


第2回ワークショップ
まとめ原本 (R5.12.11)

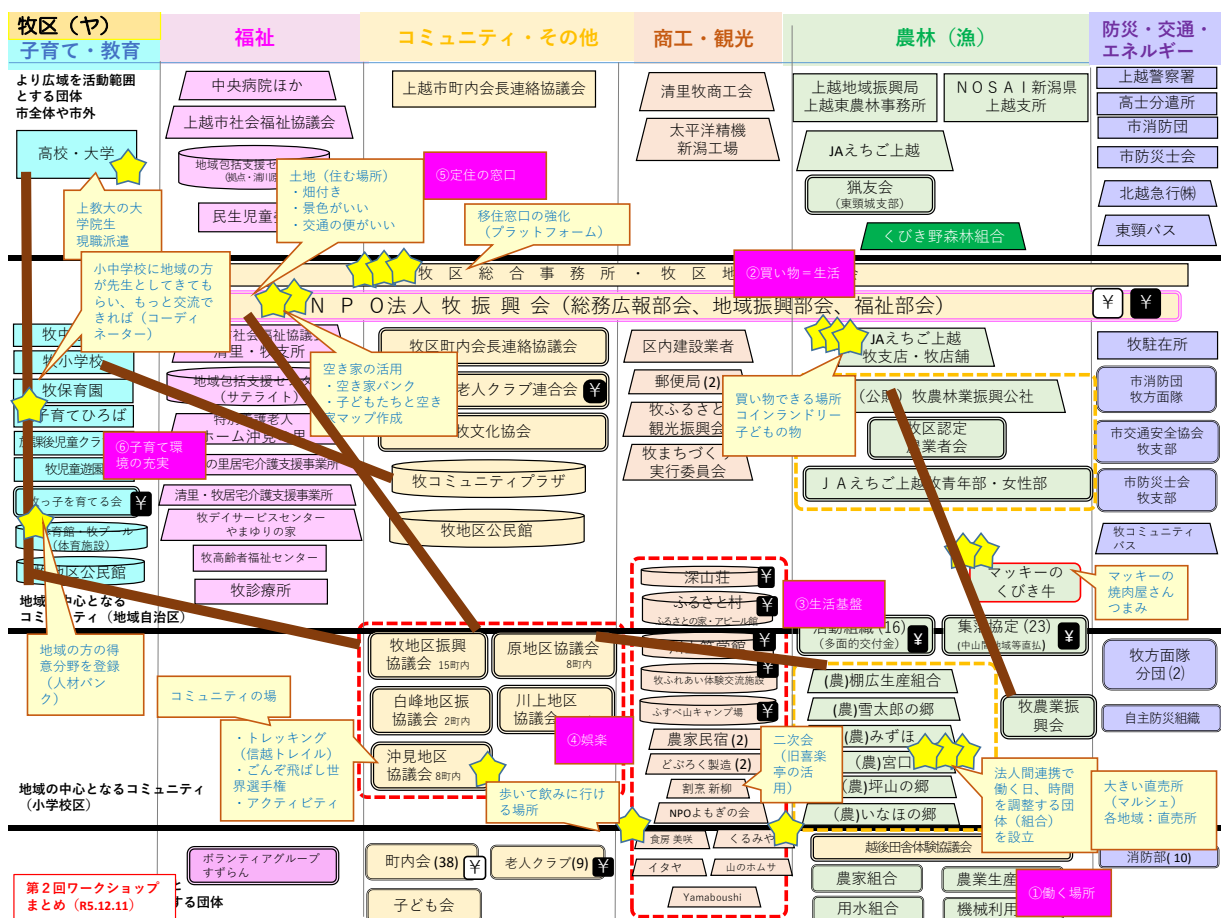


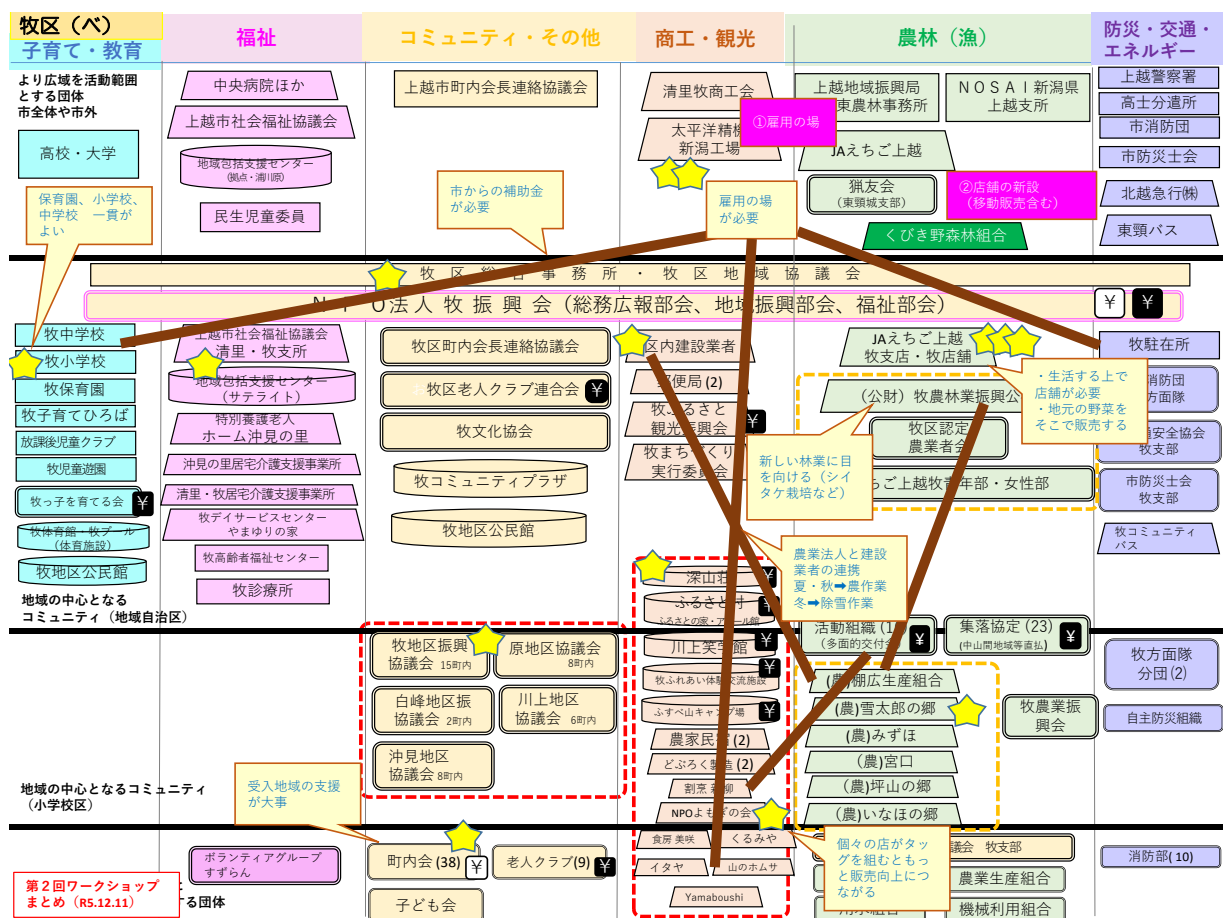
第2回ワークショップ
まとめ (R5.12.11)

大島(ベテラン)



牧(ヤング)





第4回 活動報告

テーマ 『定住を実現するためのアイデアを出し合う』

- ① 浦川原区 1月16日(火)
2月20日(火)

場所:浦川原区総合事務所 301 会議室
時間:18時30分から20時30分

1/16
(火)
浦川原

1/18
(木)
大島

2/26
(火)
牧

- ② 大島区 1月18日(木)
2月22日(木)

場所:大島区コミプラ 市民活動室1
時間:18時30分から20時30分

- ③ 牧区 2月26日(月)

場所:牧区総合事務所 301 会議室
時間:18時30分から20時30分

ワークショップの流れ

18:30 はじめに

前回のふりかえり、今回のグループワークの進め方、定住推進の取組みを考える上でのポイントを説明しました

18:45~20:30 グループワーク

各2グループ(ヤング・ベテラン)にわかれて、模造紙を使ったグループワークを行いました。



開催内容

～ 次世代の定住を実現する取組 (アイデア)を考える ～

人口の安定化シナリオや将来の地元関係図等の実現に向けて、実践する具体的な取組(アイデア)を出し、まとめる

① 定住を推進するための、具体的な取組(アイデア)は何か？

② その取組(アイデア)は、誰が主体となり、どのように連携して行ったらよいか？

③ 来年度取組む内容(お試しも含む)を考える

<成果発表会>

1 趣 旨

近年、人口減少や高齢化が進む中、地域コミュニティの維持や生活支援、地域内、地域外との交流など、様々な地域課題への対応が求められている。そのためには、人口の安定化をはじめ、経済の面においても、環境の面においても、将来にわたり持続可能なまちづくりを、地区ごとに進めることが重要と考えている。

令和5年度は、大島、浦川原、牧の3区をモデル地区とした「地区別まちづくりワークショップ」をスタートさせた。ワークショップには様々な活動分野から、老若男女の住民が参加し、地域の現状・課題を整理し、地域が持続可能であるための将来像を考え、定住を実現するためのアイデアを提示することを目的としていた。

この各チームのアイデアを報告、話し合いの経過等を発表・共有する場づくりとするとともに、来年度以降の実践に向けた場づくりのキックオフを行うもの。

2 日 時

令和6年3月10日(日) 13:30~15:30(開場 13:00~)

3 会 場

浦川原コミュニティプラザ 市民ホール(施設予約は 11:00~)

4 参加者

約 90 人(ワークショップ参加者 45、3 区住民 25、その他住民 10、議員 4、報道 4)

5 プログラム

時 間	内 容
13:30~13:35	挨拶:藤山所長 or 内海副所長
13:35~13:45	趣旨・ワークショップの開催実績報告
13:45~15:00	ワークショップ成果報告 【発表内容】人口シミュレーション 地元関係図・天気図(地域の仕組み・強み・弱み) 定住推進に向けた取組(アイデア) ① 大島ベテランチーム ② 大島ヤングチーム ③ 浦川原ベテランチーム ④ 浦川原ヤングチーム ⑤ 牧ベテランチーム ⑥ 牧ヤングチーム
15:00~15:25	総評と今後の活動に向けて(藤山所長)
15:25~15:30	発表を聞いての感想(市長)

～ 令和5年度 上越市持続可能な地区別まちづくり支援事業 ～

大島・浦川原・牧区

地区別まちづくり ワークショップ 成果発表会

3/10
(日)

13時30分～
15時30分
(開場 13時)

[会 場] 浦川原コミュニティプラザ
4階 市民ホール
(上越市浦川原区釜淵5番地)



地域内の人口や組織などを共有



持続可能な地域づくり(定住戦略)に
向けたアイデア出しを実施中



ワークショップでの話し合った成果を発表

★定住促進に向けた取組のアイデアを発表します！！

近年、人口減少や高齢化が進む中、地域コミュニティの維持や生活支援、地域内外との交流など、様々な地域課題への対応が求められています。そのためには、人口の安定化をはじめ、経済の面においても、環境の面においても、将来にわたり持続可能なまちづくりを、地区ごとに進めることが重要と考えています。

そこで、今年度大島、浦川原、牧の3区をモデル地区に選定し、地域の現状・課題を整理し、地域が持続可能であるための将来像を考え、定住促進に向けた課題やアイデアを検討するための住民ワークショップを行ってきました。

今回、この事業の概要を振り返るとともに、ワークショップの成果を発表します。地域づくりや協働のあり方など、関心のある皆様の参加をお待ちしています。

■統括アドバイザー



上越市創造行政研究所
所長 藤山 浩

【お問合せ】 上越市創造行政研究所 025-526-3490 (平日8:30～17:15)

成果発表会の様子(全体)

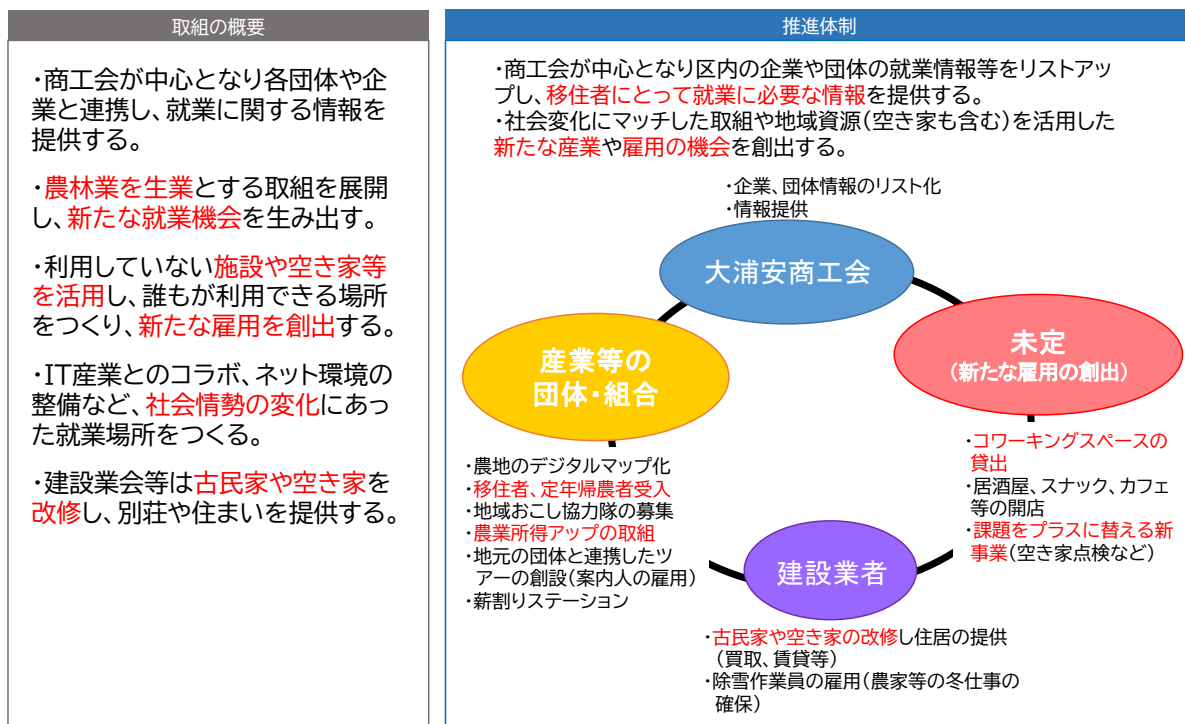


① 大島区ベテランチーム

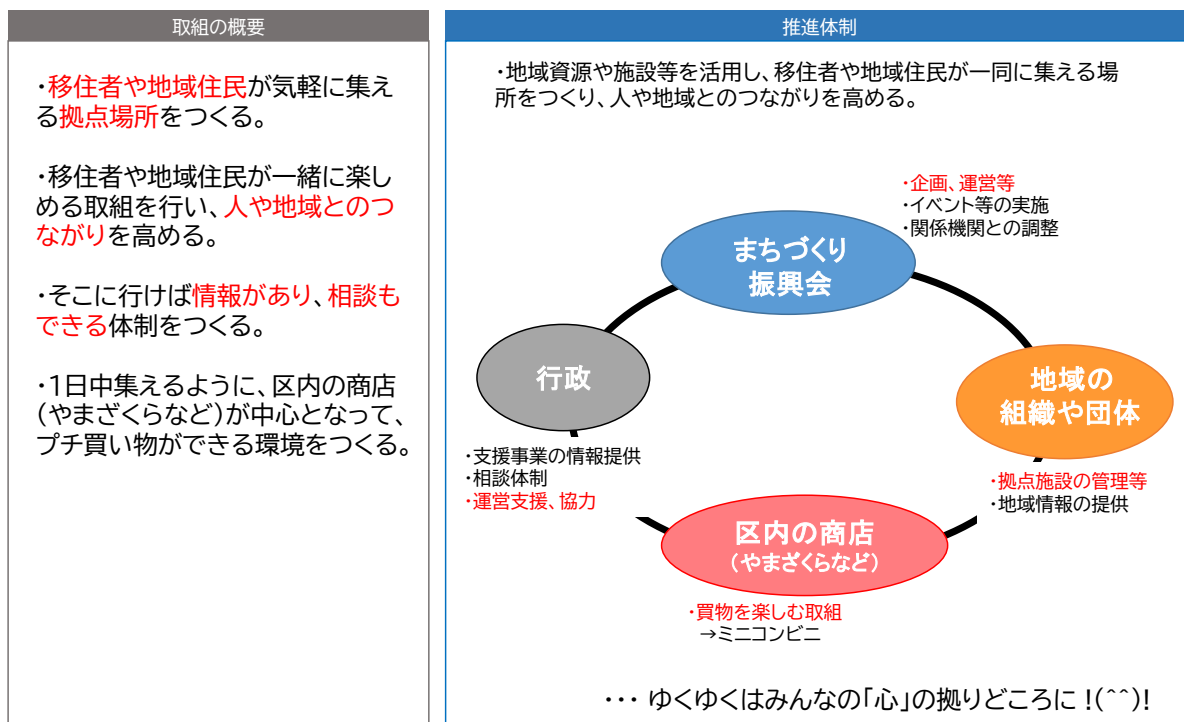
大島区の定住推進に向けて		シート番号	④
		チーム名	大島区ベテランチーム
現状・課題 ・人口減少の要因として、大島区の高齢化率が高いことに伴う自然減のほか、10代後半から20代前半までにかけて、進学や就職を機に市外へ転出する若者が多い。また、20代後半から30代の子育て世代の女性の転出も多い。 ・少子高齢化に伴い様々な担い手が不足し、自治運営やまちづくり活動が減少している。 ・働く場所や職種が少なく、就職のため区外に転出する人が多いため、地域の活力が無くなってきている。 ・高齢者世帯や一人暮らし世帯が多い大島区では、年々、空家家が増えている。 ・社会変化や高齢化により地域活動の場が減少し、各種活動に関する意欲の低下やつながりが薄れてきている。		取組の柱 ★3つの柱 ① 「住むところ」 ② 「働くところ」 ③ 「集うところ」	
地域の魅力・特徴 ・ほたるやぶなの森、飯田邸などほかの地域にはない魅力的な資源が大島にはある。 ・農業に携わる法人や組織がある一方で、若い人たちが農を切り口に新たな活動に取り組んでいる。 ・移動販売車を活用した地域巡回型の顔の見える取組を展開しながら、地域の見守りも行っている。 ・特別養護老人ホームほくら園をはじめ、福祉施設が充実しており、それぞれの関係機関で連携が図られている。			

柱① 住むところ		シート番号	⑤
		チーム名	大島区ベテランチーム
取組の概要 ・一元的に住むところをコーディネートできる仕組みをつくる。 ・行政と地域が連携し、空き家などの情報の共有、所有者との連絡窓口の機能を担う。 ・まちづくり振興会とやまざと暮らし応援団が協力して、移住先として選ばれるための取組を実施する。 ・コーディネート組織は移住に関する情報や体験イベント、住宅や空き家等の情報を一元化し、発信する。		推進体制 ・まずは大島区に訪れてもらい、人や自然にふれあう中で、移住先のひとつとして選ばれる取組を、展開できる仕組みを構築する。 ・移住者のニーズにあった住宅や空き家の紹介をはじめ、地域や暮らしの情報を一元化し、発信する。 ・ワンストップ相談窓口の設置(世話人) ・移住に関する情報、地域・暮らしの情報 ・空き家情報バンク(マッチング、見学など) ・情報の一元化、発信 ・お試し移住体験、イベント等 ・古民家レンタル、シェアハウス 【コーディネート組織】 世話人 まちづくり振興会 行政 各地区協議会 各町内会 やまざと暮らし応援団 空き家所有者 ・空き家情報バンク ・移住に関する支援制度 ・空き家の補助金制度 ・地域や暮らしに関する情報 ・空き家の情報提供 ・空き家所有者との窓口(移住後は移住者との相談窓口も)	

柱②	働くところ	シート番号	⑥
		チーム名	大 島 区 ベ テ ラ ン チ ー ム



柱③	集うところ	シート番号	⑦
		チーム名	大 島 区 ベ テ ラ ン チ ー ム



選ばれる地域になるための体制づくり

シート番号

⑧

チーム名

大島区ベテランチーム

○ ワンストップコーディネートの窓口づくり

移住する場所(住むところ)を決めるには、移住するための情報探しがキーポイント。
そこを判断するには……どこでどんな情報が手に入るのか、それも簡単に！

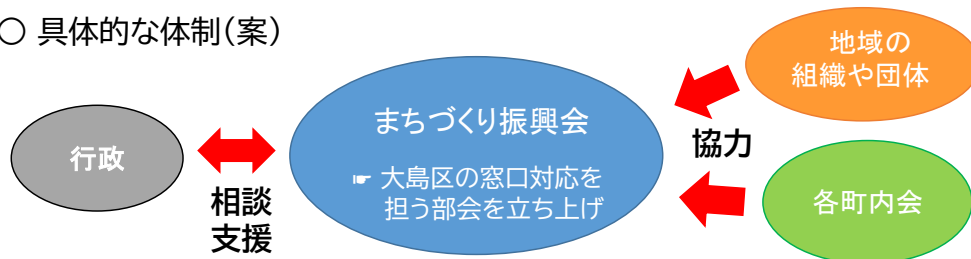


移住に関する情報を一元化し、一箇所で情報収集や相談等ができる
窓口一本化に向けた体制を検討する。

【一元化する主な項目】

- ・移住に関する情報
- ・住むところ、働くところ、地域の情報
- ・住居の情報(市営住宅、空き家等)
- ・暮らし体験イベント

○ 具体的な体制(案)



② 大島区ヤングチーム

大島区の定住推進に向けて

シート番号

④

チーム名

大島区ヤングチーム

現状・課題

- ・人口減少の要因として、高齢化による自然減のほか、進学や就職、結婚を機に市外へ転出する若者が多い。
- ・あらゆる分野の担い手不足が顕著化しており、若者の参画や活動を活性化させる必要がある。
- ・4地区(旧校区)のつながりが弱い。
- ・移住や暮らしに関する情報や定住の窓口となる体制が一元化されておらず、移住定住の獲得機会を逃している。
- ・大島区の資源、観光スポットなどのPRが不足している。

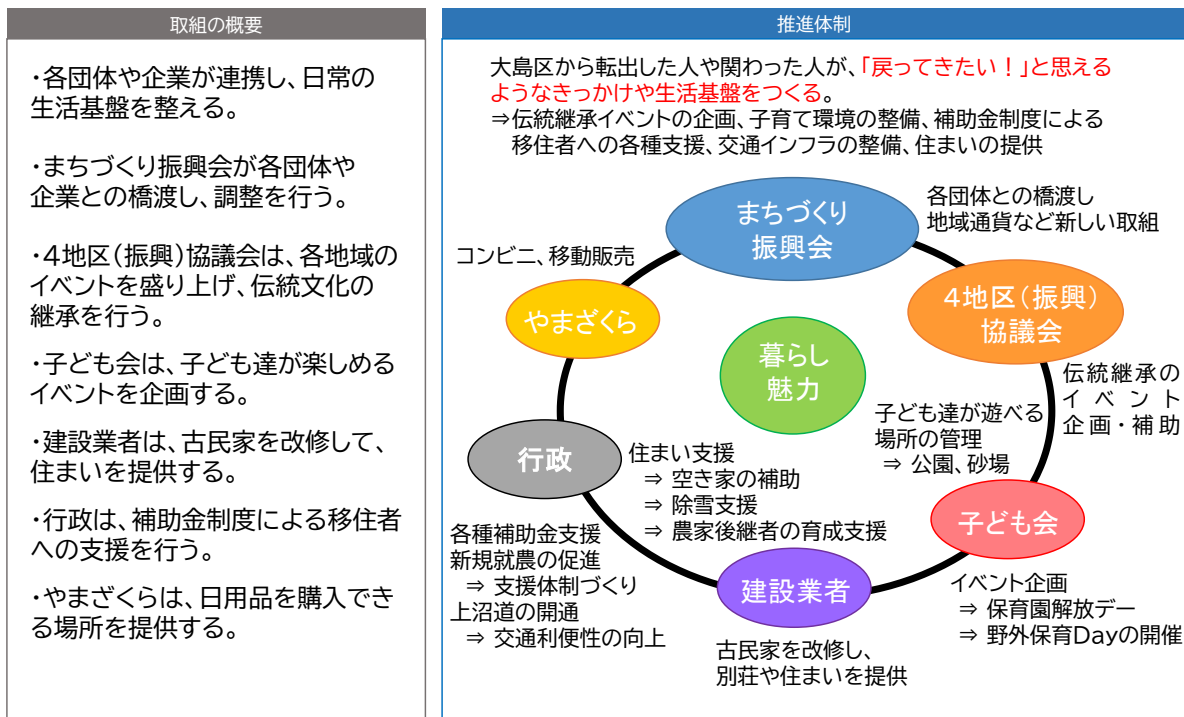
地域の魅力・特徴

- ・ほたるやぶなの森、飯田邸など、ほかの地域にはない魅力がある。また、立派な「ほくほく大島駅」がある。
- ・農業に参加する若い人たちが増えてきている。
- ・細越平生会や里山イノベーションなど若い人たちによる新たな取組が展開されている。
- ・特別養護老人ホームほか、福祉施設がある。また、福祉関係の連携が図られている。

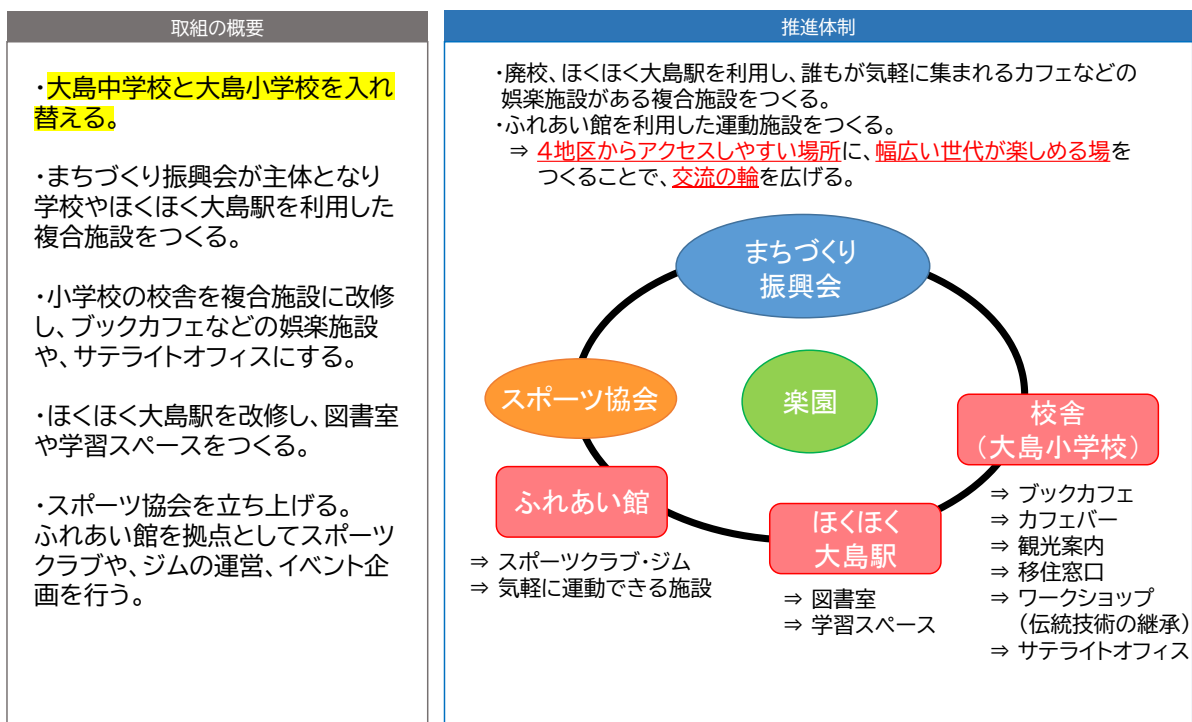
取組の柱

- ① 戻ってきたい！と思えるまちづくり
- ② 誰もが楽しめる場づくり
- ③ 大島区の情報発信

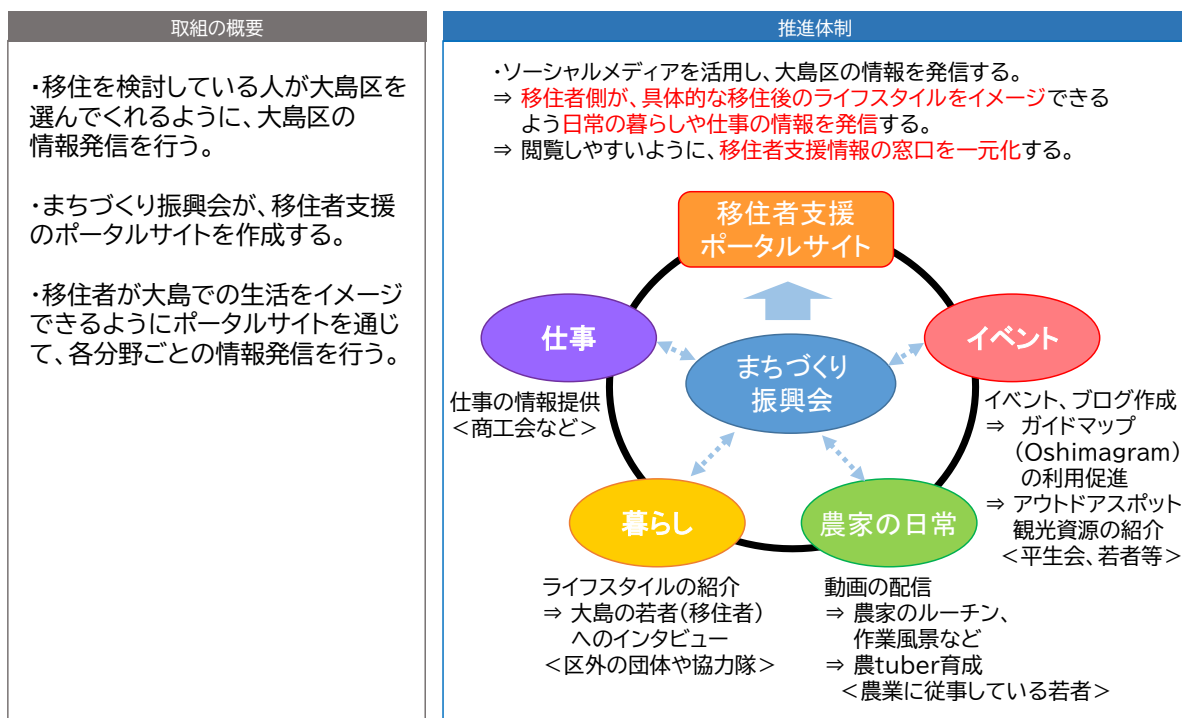
柱①	戻ってきたい！と思えるまちづくり	シート番号	⑤
		チーム名	大島区ヤングチーム



柱②	誰もが楽しめる場づくり	シート番号	⑥
		チーム名	大島区ヤングチーム



柱③	大島区の情報発信	シート番号	⑦
		チーム名	大島区ヤングチーム



大島小学校の校舎を利用した複合施設の開業	シート番号	⑧
	チーム名	大島区ヤングチーム

- ☆大島小学校を大島中学校(来年度廃校)校舎へ移転
理由 中学校は教室も広く複式学級にはピッタリサイズ。トイレもきれいで、給食センターもあるため温かい給食を食べることができる。
- ☆小学校校舎を複合施設にする
理由 小学校校舎を複合施設にすることにより、農協、郵便局、総合事務所など、様々な施設が近隣に集まり利便性が高い。国道253号線からも見える建物なので、外部からの集客も期待できる。
- ☆施設の概要
カフェ、観光案内、移住窓口、各種ワークショップ、サテライトオフィス



大島小学校の校舎



廃校活用した校舎内の音楽スタジオ
(参考事例:愛媛県 旧・中津小学校)

③ 浦川原ベテランチーム

浦川原区の定住推進に向けて	シート番号	④
	チーム名	浦川原区ベテランチーム

現状・課題 ・人口減少の要因として、10代後半から20代前半までにかけて、進学や就職を機に市外へ転出する若者が多く、その後、戻ってくる人も減少している。また、20代後半から30代の子育て世代の転出も多い。 ・このまま放置すると、急激な人口減少と高齢化が進行する。 ・何もしないと、小・中学生数は、10年間で半減もあり得る。 ・移住や暮らしに関する情報や定住の窓口となる体制が一元化されておらず、移住や定住の獲得機会を逃している。 ・まちづくりの様々な分野において、担い手不足が顕著化しており、若者の参画や活動を活性化させる必要がある。	➡	取組の柱 柱① 集いの場 浦川原に暮らしている人たちの満足度を上げないと、そこに暮らしてみたいと思う人は増えない！ まずは、地元の人たちが集い、おしゃべりしたり、子どもを遊ばせたり、学び合うなどの場を作る。 柱② おためしハウス 空き家を活用し、田舎暮らしを体験する「おためしハウス」をモデル地区や町内会で開設し、移住・定住の促進につなげる。 柱③ 情報の発信 浦川原区内の様々な情報をリンクさせ、ホームページやSNSなどで区内外へ発信する発信局を作る。
地域の魅力・特徴 ・【強み】農業関係の組織の充実・連携 ・【強み】子育て環境が整っている。 【台風】NPO法人うらがわらスポーツクラブ ・【強み】スーパーやドラッグストア、ホームセンターなど、買い物ができるところがある。 → 若いお母さん・30代女性の集いの場、働く場所 ・【弱み】地区協議会や各分野の組織の関係性が薄い。 【台風】NPO法人夢あふれるまち浦川原 → 各組織を結びつけるハブ機能の役割		

柱① 集いの場	シート番号	⑤
	チーム名	浦川原区ベテランチーム

取組の概要 浦川原に暮らしている人たちの満足度を上げないと、そこに暮らしてみたいと思う人は増えない！ まずは、地元の人たちが集い、おしゃべりしたり、子どもを遊ばせたり、学び合うなどの場を作る。 NPO法人 夢あふれるまち浦川原 ・「集いの場」を開設する。 ・集まった人の声を吸い上げるとともに、コミュニケーションを通じて、暮らしの満足度を上げるアイデアを得る。 ・時には、キッチンカーやカフェなどを併設するため、業者を手配する。 ・市やJAの施設を会場に利用する。 市・浦川原区総合事務所 ・会場として、公共施設を提供する。 ・コミュニティプラザ、公民館、駅待合室、体育館(スポーツクラブのイベント)、月影の郷・サッカーグラウンド など JA ・会場として、浦川原物産館 など	推進体制 浦川原に暮らしている人の満足度向上 → 暮らしてみたいと思う人の増加！ ・会場や管理人の手配 ・集まった人の声を吸い上げる。 ・コミュニケーションを通じて、暮らしの満足度を上げるアイデアを得る。 ・キッチンカーやカフェなどの併設(手配) ・公共施設を提供 コミュニティプラザ、公民館、駅待合室、体育館(スポーツクラブのイベント)、月影の郷・サッカーグラウンド など ・浦川原物産館 など
---	---

柱②	おためしハウス	シート番号	⑥
		チーム名	浦川原区ベテランチーム

取組の概要
空き家を活用し、田舎暮らしを体験する「おためしハウス」をモデル地区や町内会で開設し、移住・定住の促進につなげる。 モデル地区やモデル町内会 ・「おためしハウス」を開設する。 ・NPOと空き家や遊休農地の情報を共有する。 ・お試し期間や移住後の農業体験を実施する。 ・地元の実情などを知るため、高齢者世帯へのショートステイを実施する。 ・農業の指導や生活の相談相手として、主に高齢者が世話人の役目を担う。 NPO法人 夢あふれるまち浦川原 ・移住・定住部門や相談窓口、案内人を設置し、移住に関する情報の一元化や発信を行う。 ・空き家情報バンクにより、所有者と利用者のマッチングを図る。 ・お試し期間や移住後の体験プラン(地域の伝統文化・芸能活動3団体、獺友会活動の見学など)を実施する。 農業公社、商工会 ・就労や起業、事業継承の相談などを受ける。 ・空き家のリノベーションや農地に関する相談などを受ける。

推進体制
・移住・定住部門の設置 ・相談窓口、案内人の設置 ・移住に関する情報の一元化・発信 ・空き家情報バンク(所有者と利用者のマッチング) ・お試し期間や移住後の体験プラン(地域の伝統文化・芸能活動3団体、獺友会活動の見学 など) ・空き家や遊休農地の情報提供 ・お試し期間や移住後の農業体験 ・地元の実情や歴史などを知るため、高齢者世帯へショートステイ ・世話人の設置(農業の指導や生活の相談相手として、主に高齢者が役目を担う。) ・就労や起業、事業継承の相談 など ・空き家のリノベーションや農地に関する相談 など

柱③	情報の発信	シート番号	⑦
		チーム名	浦川原区ベテランチーム

取組の概要
浦川原区内の様々な情報をリンクさせ、ホームページやSNSなどで区内外へ発信する発信局を作る。 NPO法人 夢あふれるまち浦川原 ・区内外へ発信する発信局となる。 ・地域の様々な組織や人への取材や情報提供を受ける。 地域の様々な組織・人々 ・情報の提供元 市・浦川原区総合事務所 ・NPOの発信局の情報を市ホームページやSNSとリンクさせる。

推進体制
・情報の提供元 - 町内会 - 地区協議会 - NPO法人うらがわらスポーツクラブ - JAえちご上越浦川原支部、農業法人 - 区内のお店 - 小・中学校、保育園 - 浦川原地区公民館 など ・浦川原区内の様々な情報の発信局 ・浦川原区内の様々な情報のリンク ・市ホームページやSNSとリンク

浦川原区で来年度取組む内容

シート番号

⑧

チーム名

浦川原区ベテランチーム

しゃべり場・遊び場・カフェコミプラ

浦川原コミュニティプラザ2階（玄関正面）の市民サロンを「集いの場」にしちゃう！

- ・土曜か日曜に集まろう！
- ・市民サロンの真ん中に置かれている応接椅子（11脚）やテーブル（4台）を壁際に移して、サロンの中心を囲んで座れるようにしよう！足りなければ、木のベンチも使える。
- ・空いたスペースに子供たちが遊べるマットを敷く。
大人が座って話をしてもいいね。
- ・美味しいコーヒーが飲みたいね。
- ・イベントをやってもいいね。
レクリエーションや音楽、イベントでなくても演奏できるかな？
- ・運営は誰がする？
ルールを決める必要があるね。



④ 浦川原ヤングチーム

浦川原区の定住推進に向けて

シート番号

④

チーム名

浦川原区ヤングチーム

現状・課題

- ・人口減少の要因として、10代後半から20代前半までにかけて、進学や就職を機に市外へ転出する若者が多く、その後、戻ってくる人も減少している。また、20代後半から30代の子育て世代の転出も多い。
- ・このまま放置すると、急激な人口減少と高齢化が進行する。
- ・何もしないと、小・中学生数は、10年間で半減もあり得る。
- ・移住や定住に関する情報が一元化されておらず、窓口が明確になっていない。また、浦川原区の魅力を発信する場がないことから、移住や定住の獲得機会を逃している。

地域の魅力・特徴

- ・【強み】NPO法人うらがわらスポーツクラブと学校の連携、放課後児童クラブ・子育てひろば等の子育て環境
→ 子育て支援・若いお母さんの集いの場
- ・【弱み】駅周辺の盛り上がり感がイマイチ…もっとイベント等があれば…
- ・【台風】浦川原物産館
→ 駅に隣接している環境を生かして、イベント開催や店内への飲食スペース設置により人が集まる場所に
- ・【強み】スーパーやドラッグストア、ホームセンターなど買い物できる環境が充実
→ 若いお母さんの集いの場・働く場所
- ・【弱み】区内の各分野同士の連携不足
→ 各分野を結びつけるハブ機能を担う団体が必要

取組の柱

柱① スポーツでつながる地域

子どもたちの選択肢を増やすため、様々なスポーツを体験できるような機会を作る。
地域や住民同士のつながりを作るため、誰でも気軽にできる種目の体験会などを実施しながら区内に広める。

柱② うらがわら駅周辺の充実

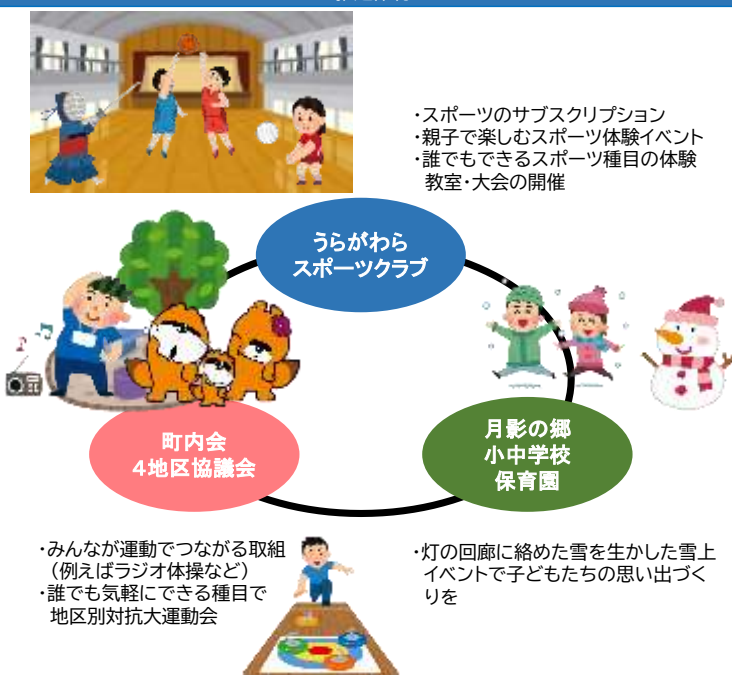
駅の隣という好立地を生かし、浦川原物産館にカフェや飲食スペースを設けるほか、キッチンカーや飲食店の誘致など、日常の中での楽しみを増やし、地域の人が顔を合わせる場所にする。

柱③ 情報発信のベース基地

団体等が個々に情報発信するだけでなく、誰でも発信できる仕組みと合わせて様々な情報が集まるSNSサイトを作る。

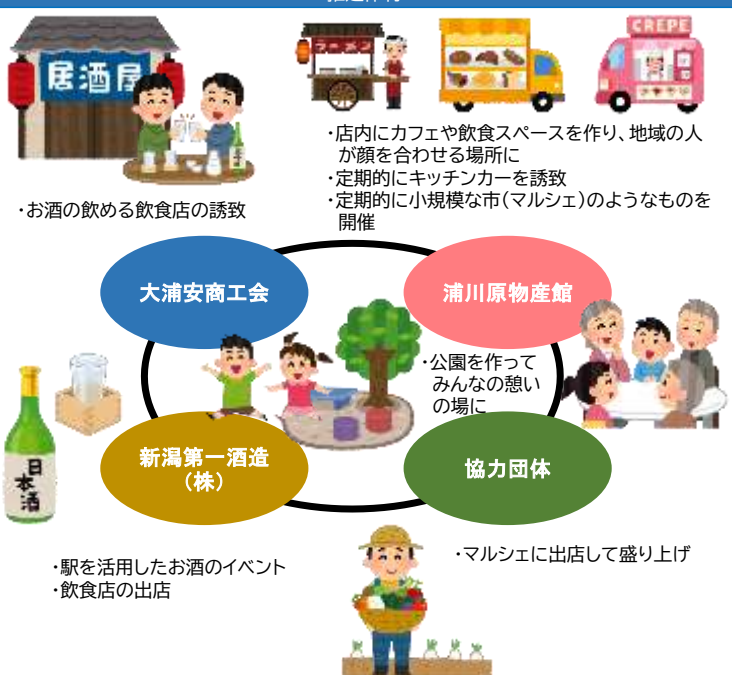
柱①	スポーツでつながる地域	シート番号	⑤
		チーム名	浦川原区ヤングチーム

取組の概要
子どもたちの選択肢を増やすため、様々なスポーツを体験できるような機会を作る。 地域や住民同士のつながりを作るため、誰でも気軽にできる種目の体験会などを実施しながら区内に広める。 NPO法人うらがわらスポーツクラブ ・定額制の体験プログラムを作成し、子どもたちが様々な種目を体験できる機会にすることで、スポーツの選択肢を増やす。 ・親子で楽しめる種目や誰でもできる種目の体験教室や大会を開催し、区内の地域や住民同士が繋がっていきけるような取組を広める。 ・灯の回廊に絡めた雪を生かした雪上イベントを開催して子どもたちの忘れられない思い出作りの機会にする。 町内会 4地区協議会 ・健康づくりのため、地域住民も参加しながら、みんなで運動する取組（例えば子ども会等で行っているラジオ体操やウォーキングなど）の機会を継続・拡大する。 ・誰でもできる種目で行われる地区別対抗大運動会に参加する。 月影の郷・小中学校・保育園 ・各種イベントに協力する。

推進体制
 うらがわらスポーツクラブ ・スポーツのサブスクリプション ・親子で楽しむスポーツ体験イベント ・誰でもできるスポーツ種目の体験教室・大会の開催 町内会 4地区協議会 ・みんなが運動でつながる取組（例えばラジオ体操など） ・誰でも気軽にできる種目で地区別対抗大運動会 月影の郷小中学校保育園 ・灯の回廊に絡めた雪を生かした雪上イベントで子どもたちの思い出づくりを

柱②	うらがわら駅周辺の充実	シート番号	⑥
		チーム名	浦川原区ヤングチーム

取組の概要
駅の隣という好立地を生かし、浦川原物産館にカフェや飲食スペースを設けるほか、キッチンカーや飲食店の誘致など、日常の中での楽しさを増やし、地域の人々が顔を合わせる場所にする。 浦川原物産館 ・店内にカフェや飲食スペースを作り、電車を待つ人や地域の人々が顔を合わせる場所にする。 ・定期的にキッチンカーを呼ぶ。 ・定期的に小規模な市（マルシェ）のようなものを開催し、地域の人々が集まり、顔を合わせる場所にする。 大浦安商工会 ・お酒の飲める飲食店を誘致する。 新潟第一酒造（株） ・電車利用によるお酒のイベントを開催する。 ・浦川原物産館のイベント等に出店する。 協力団体 ・マルシェに出店して盛り上げる。 その他 ・公園を作り、子どもが遊んだり地域の人々が過ごしたりできる憩いの場にする。

推進体制
 大浦安商工会 ・お酒の飲める飲食店の誘致 浦川原物産館 ・店内にカフェや飲食スペースを作り、地域の人々が顔を合わせる場所に ・定期的にキッチンカーを誘致 ・定期的に小規模な市（マルシェ）のようなものを開催 新潟第一酒造（株） ・駅を活用したお酒のイベント ・飲食店の出店 協力団体 ・公園を作ってみんなの憩いの場に ・マルシェに出店して盛り上げ

柱③	情報発信のベース基地	シート番号	⑦
		チーム名	浦川原区ヤングチーム

取組の概要	
団体等が個々に情報発信するだけでなく、誰でも発信できる仕組みと合わせて様々な情報が集まるSNSサイトを作る。	
住民組織	- 誰でも発信できる仕組みと、浦川原の様々な情報が集まる場所（ポータルサイト）を作って管理する。 - 情報発信する人をアルバイト的に雇用して内容を充実させる。 - 情報発信方法を学ぶセミナー講習を開催する。
インフルエンサー	区内の様々な情報を収集して発信する。
発信協力者	インスタグラムの#（ハッシュタグ）で浦川原の良いところやイベント等を発信する。
市・総合事務所	- 地域のことが分かるマップを作成する。 - イベントや観光スポットなどに「#浦川原つけて」と掲示する。 - 移住の相談窓口を開設し専門相談員を配置する。



浦川原区で来年度取組む内容

シート番号	⑧
チーム名	浦川原区ヤングチーム



⑤ 牧ベテランチーム

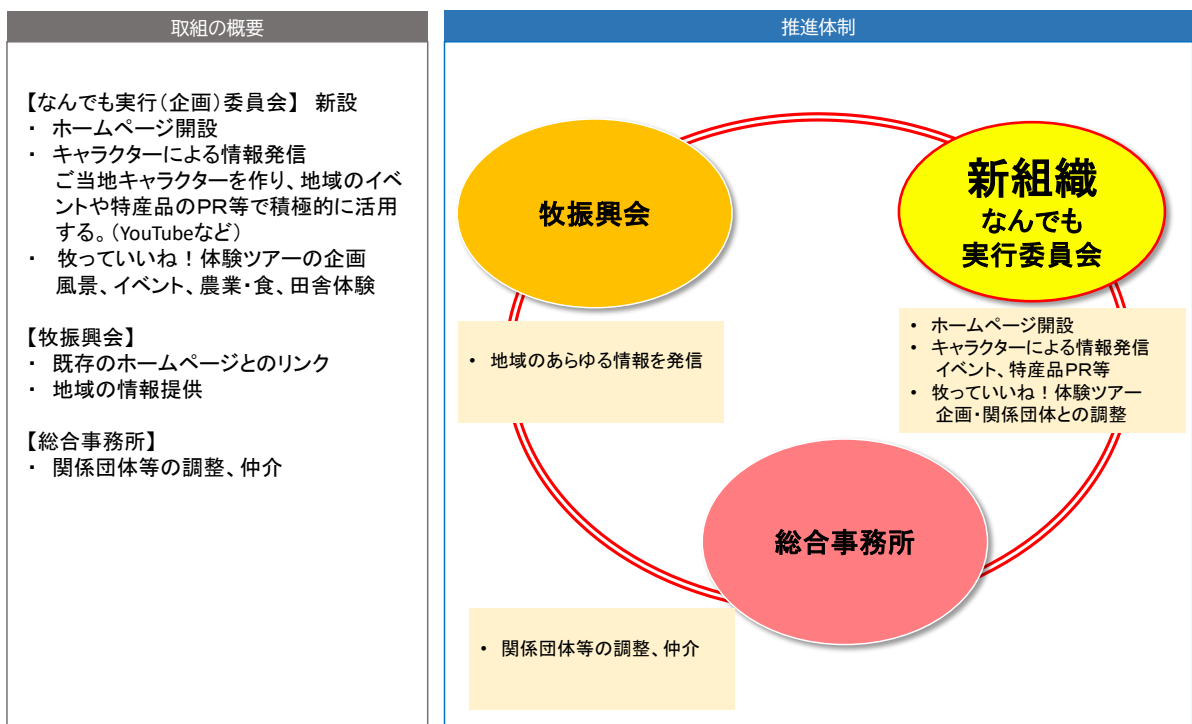
牧区の定住推進に向けて		シート番号	④
		チーム名	牧 区 ベ テ ラ ン チ ー ム
現状・課題 - 人口減少の要因としては、10代後半から30代の成人人口が減少しているほか、年代に関係なく独身者が増加している。 - 進学後、牧区に戻ってくる人が少ないことや、市内への転居による人口流出が、近年顕著になっている。 - まちづくりの中心を担う人材が固定化しているほか、若者の参画や住民同士が区内で語り合う場所や機会（つながり）が減少している。 - 年間を通じての雇用環境が少ない。		取組の柱 柱① 働く場（雇用）の確保 - 農業法人と地元建設業者との連携 - 小規模店のタッグ 柱② 生活基盤（店舗）の充実 - 既存店舗の多角的商品の取り扱い - 移動販売の実施 - 地元野菜等の販売促進 柱③ 情報発信の充実 - 牧区ご当地キャラクターによる発信 - YouTubeを活用し農業、郷土食、暮らし等の情報発信	
地域の魅力・特徴 - NPO法人を核にしたまちづくりが行われていて、一部の団体とのつながりが強固である。 - 農業関係の団体が多く、集落単位をベースにした営農活動が活発である。 - 近年、カフェなど小規模なお店の出店があり、それぞれ地域の特徴をいかした営業を展開している。 - 宿泊施設や、宴会場など比較的大規模の施設があることや、区内定額のコミュニティーバスなど特徴的な取組があるが、相乗効果が不足している。			

柱① 雇用の場（働く場所）の確保		シート番号	⑤
		チーム名	牧 区 ベ テ ラ ン チ ー ム
取組の概要 【農業法人、農業者】 - 冬期間の労働力 【地元建設業者】 - 期間雇用者の検討 【小規模店舗】 - 各店舗との連携事業の検討、実施 【総合事務所】 - 関係団体等の調整、仲介		推進体制	

柱②	生活基盤(店舗)の充実	シート番号	⑥
		チーム名	牧区ベテランチーム



柱③	情報発信の充実	シート番号	⑦
		チーム名	牧区ベテランチーム

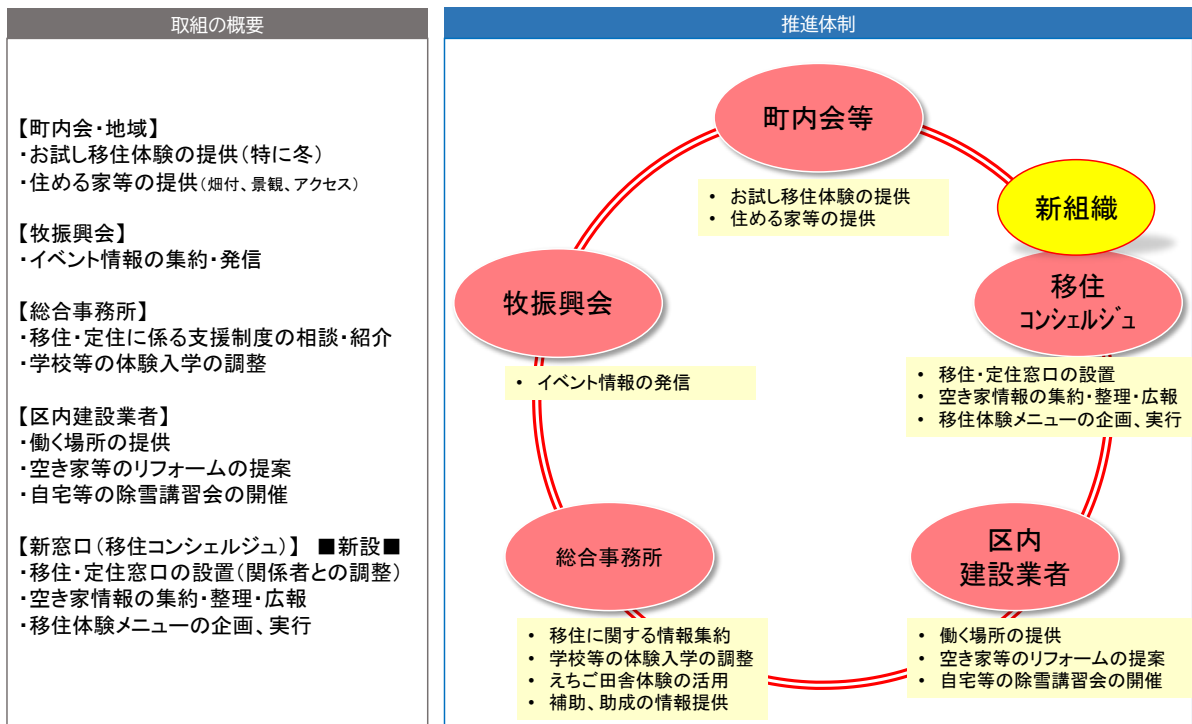


⑥ 牧ヤングチーム

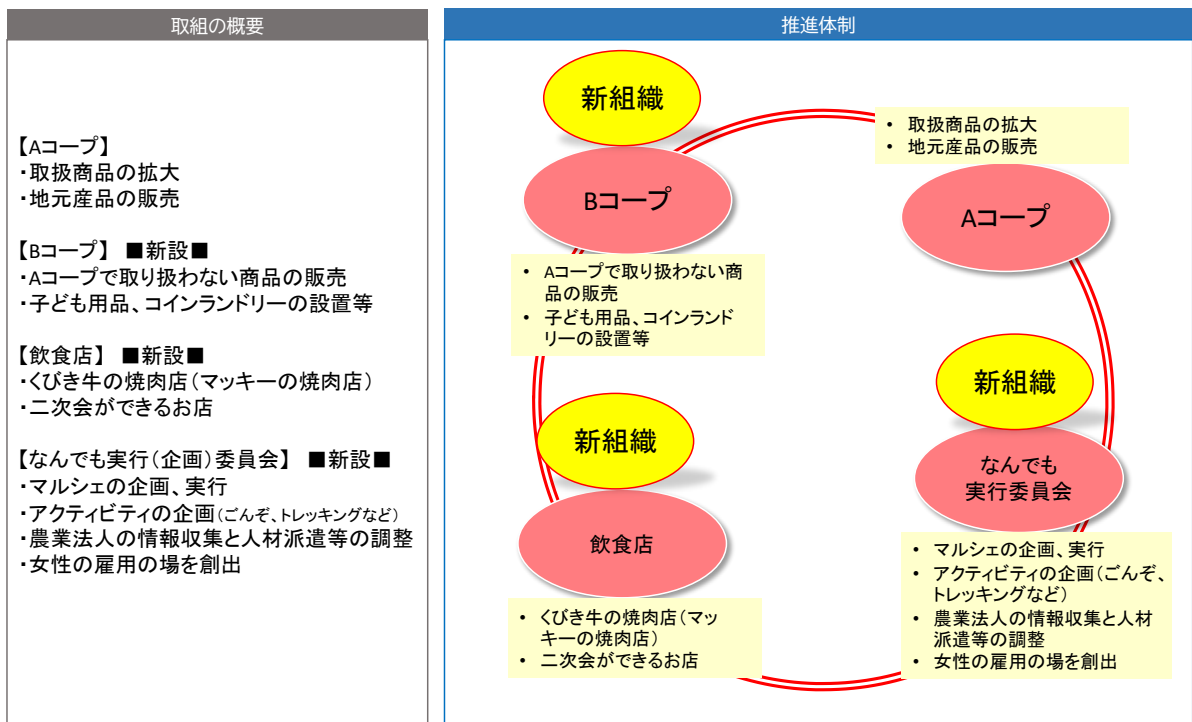
牧区の定住推進に向けて		シート番号	④
		チーム名	牧 区 ヤ ン グ チ ー ム
現状・課題		取組の柱	
- 人口減少の要因としては、10代後半から30代の成人人口が減少しているほか、年代に関係なく独身者が増加している。 - 進学後、牧区に戻ってくる人が少ないことや、市内への転居による人口流出が、近年顕著になっている。 - まちづくりの中心を担う人材が固定化しているほか、若者の参画や住民同士が区内で語り合う場所や機会（つながり）が減少している。 - 組織は多いが、参集するメンバーは同じ顔触れのことが多く、マンネリ化も見られている。		柱① 子育て環境の充実 - 地域⇄子ども⇄学校 つながり定着 - 地域の達人・名人バンクの作成・交流 - 地元学を波及（ないものねだり→あるもの探し） - 集まれる場所を確保し、イベント開催	
地域の魅力・特徴		柱② 移住・定住の窓口強化 - 移住・定住窓口の明確化、強化 - 空き家MAPの作成及びバンク化 - 情報の集約・発信 - 移住体験メニューの企画・実行	
- NPO法人を核にしたまちづくりが行われていて、一部の団体とのつながりが強固である。 - 農業関係の団体が多く、集落単位をベースにした営農活動が活発である。 - 近年、カフェなど小規模なお店の出店があり、それぞれ地域の特徴をいかした営業を展開している。 - 宿泊施設や、宴会場など比較的大規模の施設があることや、区内定額のコミュニティーバスなど特徴的な取組があるが、相乗効果が不足している。		柱③ 生活基盤の充実 （買い物・働く場所・娯楽） - 買い物できる場所（子ども用品、コイランドリー） - 現農業組織をアジャスト（調整）する新組織の設立 - 女性が働ける場所 - 旧飲食店舗を活用したお店の出店等（くびき牛の焼肉店など） - 各地域の産物の直売マルシェの開催	

柱① 子育て環境の充実		シート番号	⑤
		チーム名	牧 区 ヤ ン グ チ ー ム
取組の概要		推進体制	
【牧振興会】 - 子どもイベントの充実 - 子どもが集える場所の提供 【牧コミュニティプラザ(公民館)】 - 地域の資源の発掘・登録(ひと、もの、こと) 【牧っこ育てる会+α】 - 現組織を拡大 - コーディネーターの育成 【軽い感覚の保護者グループ】 - 気軽に集まり、話せるグループ 【教育機関(学校)】 - 地域と子どもたちの学習機会の創出 - 実習生を活用した地域との交流		<pre> graph TD MV[牧振興会] --- MC[牧コンプラ] MV --- YH[育てる会+α] MV --- KYG[気軽に集う保護者G] MC --- KYG YH --- KYG KYG --- KYG2[保護者が気楽に集う] KYG --- KYG3[子ども用品のリサイクル] KYG --- KYG4[活動を拡充] KYG --- KYG5[コーディネーターの育成] KYG --- KYG6[子どもイベント(わんぱく村等)の拡充] KYG --- KYG7[地域資源の発掘・登録(ひと・こと・もの)の拡充] KYG --- KYG8[データの集約] KYG --- KYG9[子どもの集える場所] KYG --- KYG10[上教大大学院生の地域派遣] KYG --- KYG11[小中学校と地域を結ぶ] KYG --- KYG12[地域からの学習支援] </pre>	

柱②	移住・定住窓口の強化	シート番号	⑥
		チーム名	牧 区 ヤ ン グ チ ーム



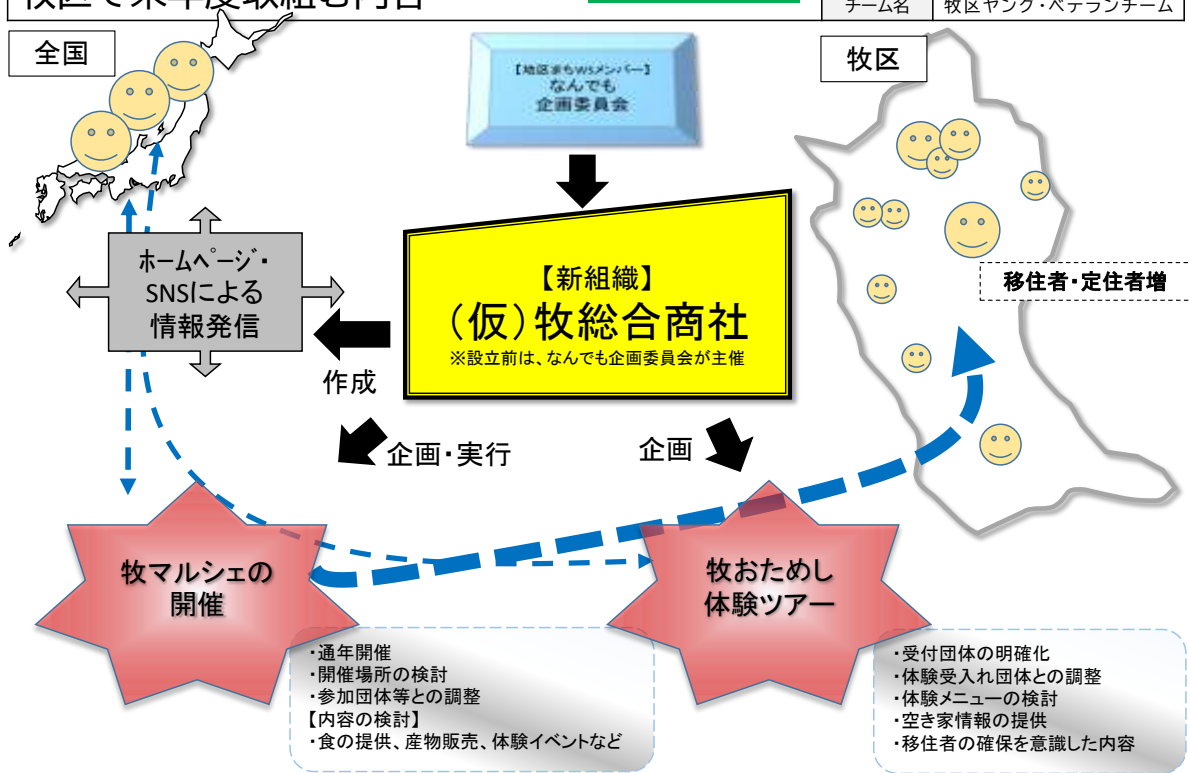
柱③	生活基盤(買い物・働く場所・娯楽)の充実	シート番号	⑦
		チーム名	牧 区 ヤ ン グ チ ーム



牧区で来年度取組む内容

ヤング・ベテラン共通

シート番号	⑧
チーム名	牧区ヤング・ベテランチーム





大島区チーム



浦川原区チーム



牧区チーム

<参考資料>

人口予測シミュレーション

V4.0.4

Copyright(c) 2019 Research Institute for Sustainable Community Company.

現行推移モデル

都道府県名: **新潟県**
市町村名: **上越市**

地区ID: **1522218**
地区名: **大島区**

人口予測FLG: **45**
算出基準年度: **2023**

2018年世帯数: **680**
2023年世帯数: **615**

0人階級はプラス: **0.5** 人として計算

	年齢層	～4	～9	～14	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	～69	～74	～79	～84	～89	90～	合計	子ども計	高齢者計
2018年	男	14	18	12	31	16	20	32	33	29	33	37	55	74	93	64	61	65	36	12	735	44	331
	女	13	22	22	23	24	16	27	22	25	26	34	41	68	64	65	67	107	91	64	821	57	458
	男女計	27	40	34	54	40	36	59	55	54	59	71	96	142	157	129	128	172	127	76	1,556	101	789

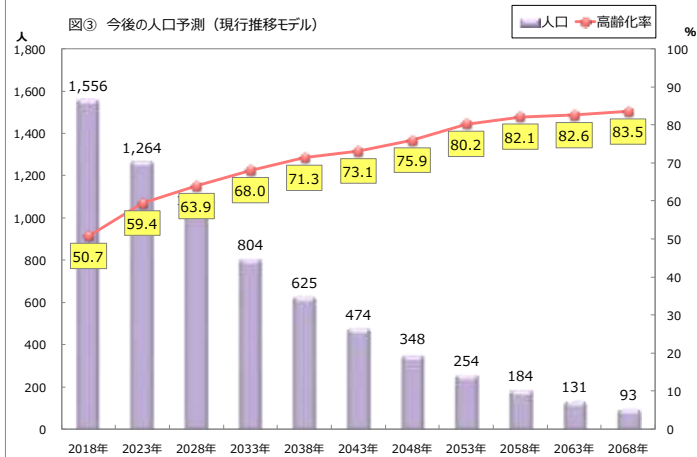
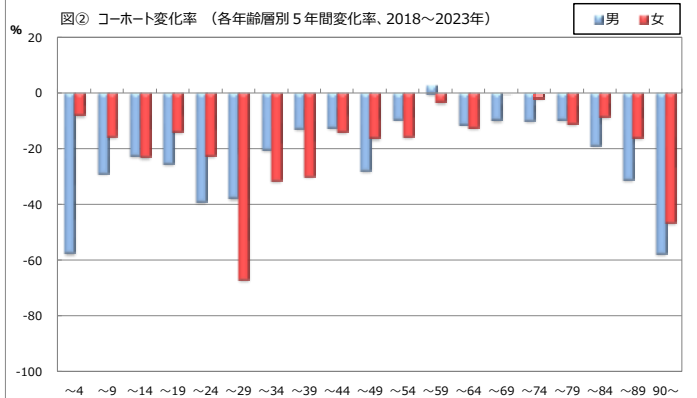
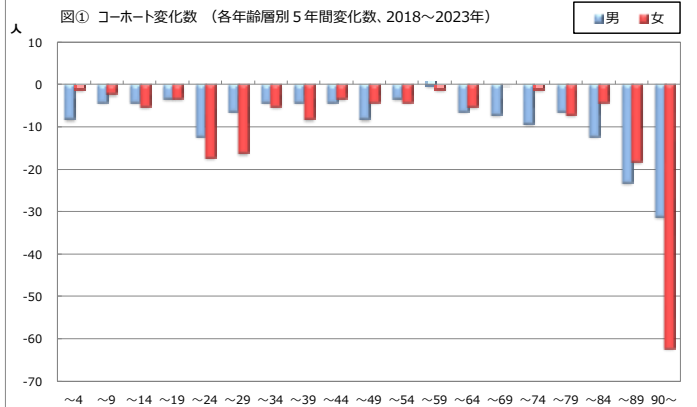
2023年	男	6	10	14	9	19	10	16	28	29	21	30	38	49	67	84	58	49	42	17	596	30	317
	女	12	11	17	19	6	8	11	19	19	21	22	33	36	68	63	58	63	89	93	668	40	434
	男女計	18	21	31	28	25	18	27	47	48	42	52	71	85	135	147	116	112	131	110	1,264	70	751
	合計	24	32	48	47	41	46	64	105	107	83	103	144	184	273	347	274	275	261	304	1,962	100	1,065

人口 (人)	人口増減率(%)	高齢化率(%)	小学生人口(人)	中学生人口(人)
1,556	-	65以上 75以上	男女別 計	男女別 計
		50.7 32.3	18 44	11 24

人口 (人)	人口増減率(%)	高齢化率(%)	小学生人口(人)	中学生人口(人)
1,264	-18.8	65以上 75以上	男女別 計	男女別 計
	-18.6	59.4 37.1	14 31	7 18

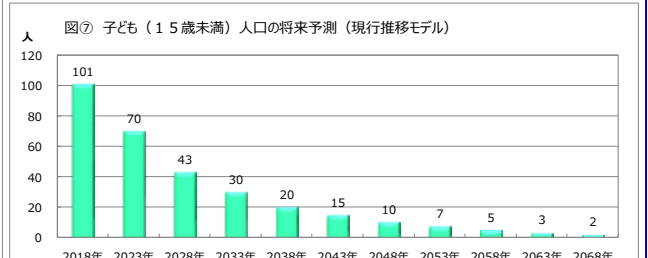
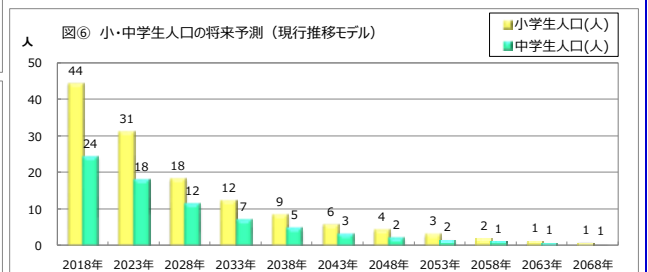
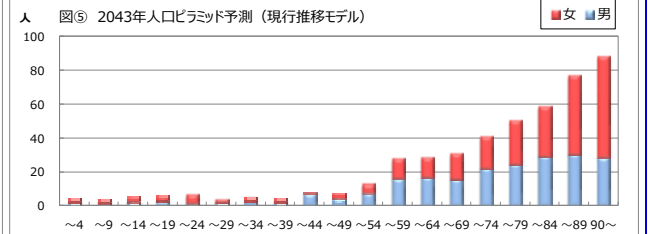
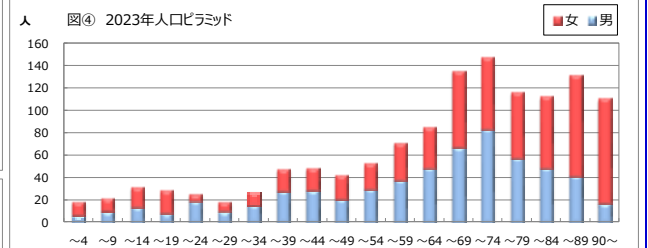
	年齢層	～4	～9	～14	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	～69	～74	～79	～84	～89	90～	合計	子ども計	高齢者計
コホート変化率	男	0.21	0.71	0.78	0.75	0.61	0.63	0.80	0.88	0.88	0.72	0.91	1.03	0.89	0.91	0.90	0.91	0.82	0.69	0.43			
	女	0.20	0.85	0.77	0.86	0.78	0.33	0.69	0.70	0.86	0.84	0.85	0.97	0.88	1.00	0.98	0.89	0.92	0.84	0.54			
予測人口 2028年	男	6	4	8	11	6	12	8	14	25	21	19	31	34	44	61	76	47	34	25	485	18	287
	女	6	6	10	9	15	15	2	6	8	16	16	18	21	29	36	67	56	53	98	533	25	363
" 2033年	男	5	4	3	6	6	3	10	7	12	18	19	20	27	31	40	55	62	33	29	386	12	246
	女	4	4	5	6	7	11	5	1	4	7	14	14	17	19	29	35	60	52	45	81	417	17
" 2038年	男	3	3	3	3	4	4	3	8	6	9	16	20	17	25	28	36	45	43	25	300	10	201
	女	3	4	4	7	6	4	3	1	3	6	12	13	15	19	29	32	55	43	67	324	10	244
" 2043年	男	3	2	3	3	2	2	3	2	7	4	8	17	17	16	22	25	38	31	29	226	7	153
	女	2	2	3	3	5	2	3	2	1	3	5	11	12	15	18	25	29	46	59	248	8	194
" 2048年	男	2	2	2	2	2	1	2	3	2	5	4	8	15	16	14	20	20	20	25	165	5	117
	女	2	2	2	2	3	2	1	2	2	1	2	5	10	12	15	16	23	24	57	162	5	147
" 2053年	男	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	5	4	7	13	14	13	17	14	20	121	4	91
	女	1	1	2	2	2	1	1	1	2	2	1	2	4	10	11	13	15	20	43	133	4	113
" 2058年	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	5	4	7	12	13	11	11	14	88	2	68
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	2	4	10	10	12	13	34	96	2	83
" 2063年	男	0	0	1	1	1	1	0	1	1	1	2	1	4	3	6	11	11	7	11	63	2	49
	女	0	0	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	2	4	9	8	10	25	69	2	59
" 2068年	男	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	1	4	3	5	9	7	8	45	1	37
	女	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	2	4	8	8	15	48	1	41

人口 (人)	人口増減率(%)	高齢化率(%)	小学生人口(人)	中学生人口(人)
1,018	-19.5	-	63.9 43.5	7 18
804	-21.0	-36.4	68.0 51.2	5 12
625	-22.3	-50.6	71.3 55.4	4 9
474	-24.2	-62.5	73.1 57.9	3 6
348	-26.6	-72.5	75.9 59.7	2 4
254	-27.0	-79.9	80.2 60.9	2 3
184	-27.7	-85.5	82.1 64.3	1 2
131	-28.4	-89.6	82.6 70.8	1 1
93	-29.6	-92.7	83.5 73.3	0 1



備考欄

・30年後の対2023年比は
人口総数: **20.09** % ※90%以上が望ましい
高齢化率: **-20.80** % ※0%以上が望ましい (2023年の高齢化率が40%を超える場合のみ)
子ども人口: **10.57** % ※90%以上が望ましい



農業就業者予測シミュレーション

Vn4.2.4

Copyright(c) 2019 Research Institute for Sustainable Community Company.

現行推移モデル

県名：**新潟県**
市町村名：**上越市**

地区ID：**1522218**
地区名：**大島区**

人口予測FLG：**0**
算出基準年度：**2020**

0人階級はプラス：**0.1** 人として計算

年齢層	15～	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	～69	～74	～79	～84	85～	合計	高齢者計
2015年 農業就業者	男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	13	17	14	34	14	99	85
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	9	14	5	2	48	43
男女計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	18	26	28	47	19	147	128

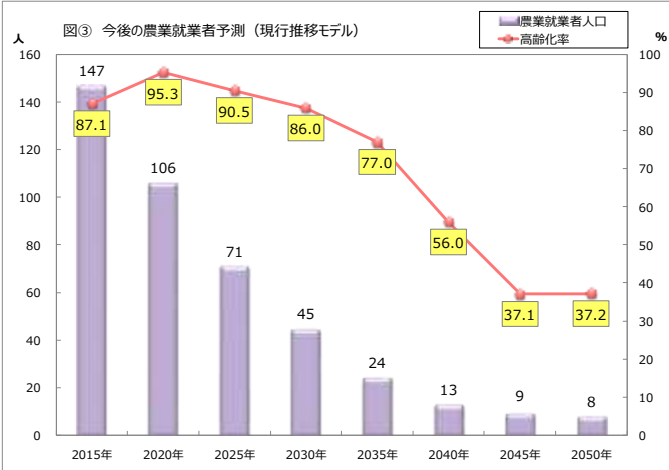
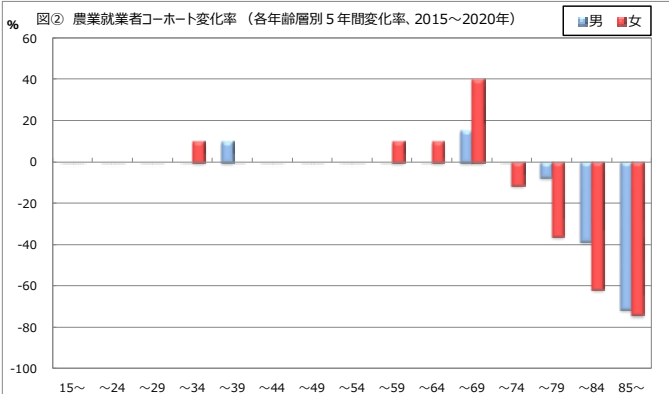
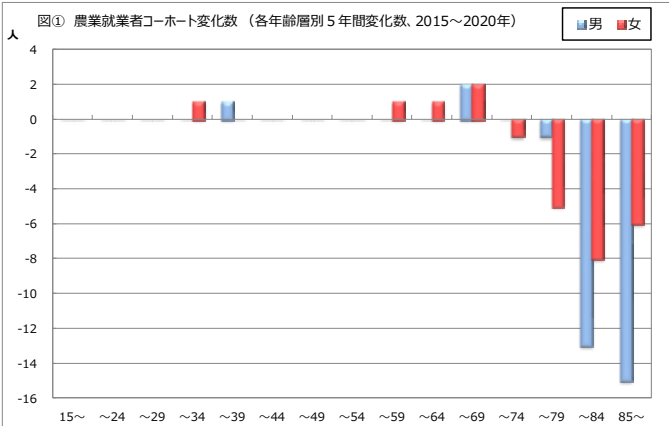
2020年 農業就業者	男	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	15	17	13	21	5	73	7
	女	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	7	8	9	5	1	33	3
	男女計	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	22	25	22	26	6	106	10

就業者(人)	就業率増減率(%)	高齢化率(%)
147	-	65以上 75以上
		87.1 50.3

就業者(人)	就業率増減率(%)	高齢化率(%)
106	全体 -27.9	65以上 75以上
	男 -26.3	95.3 50.9
	女 -31.3	

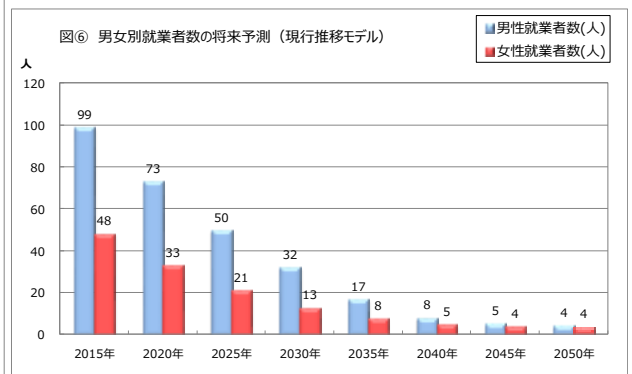
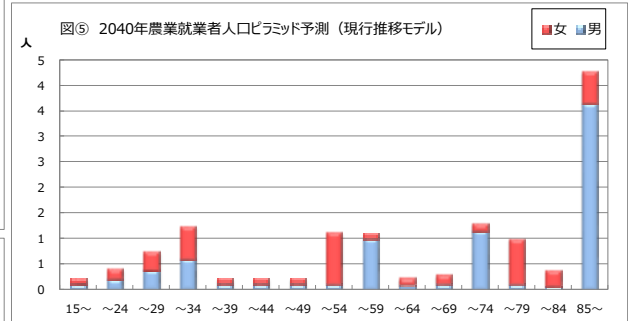
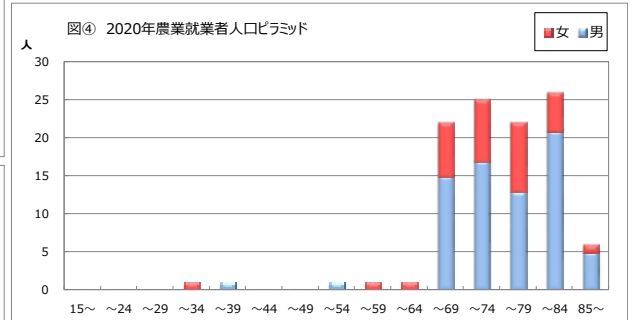
	年齢層	15～	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	～69	～74	～79	～84	85～	合計	高齢者計
コホート変化率	男	0.01	1.00	1.00	1.00	1.10	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.15	1.00	0.93	0.62	0.29		
	女	0.01	1.00	1.00	1.10	1.00	1.00	1.00	1.10	1.10	1.40	0.89	0.64	0.38	0.26			
予測人口 2025年	男	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	15	16	8	7	50	46
	女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	6	5	3	2	21	18
" 2030年	男	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	14	10	4	32	28
	女	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	1	4	2	1	13	10	
" 2035年	男	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	9	4	17	14
	女	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	1	8	5
" 2040年	男	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	4	8	5
	女	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3	5	2
" 2045年	男	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	5	2
	女	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	1	1
" 2050年	男	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	4	2
	女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4	1	1

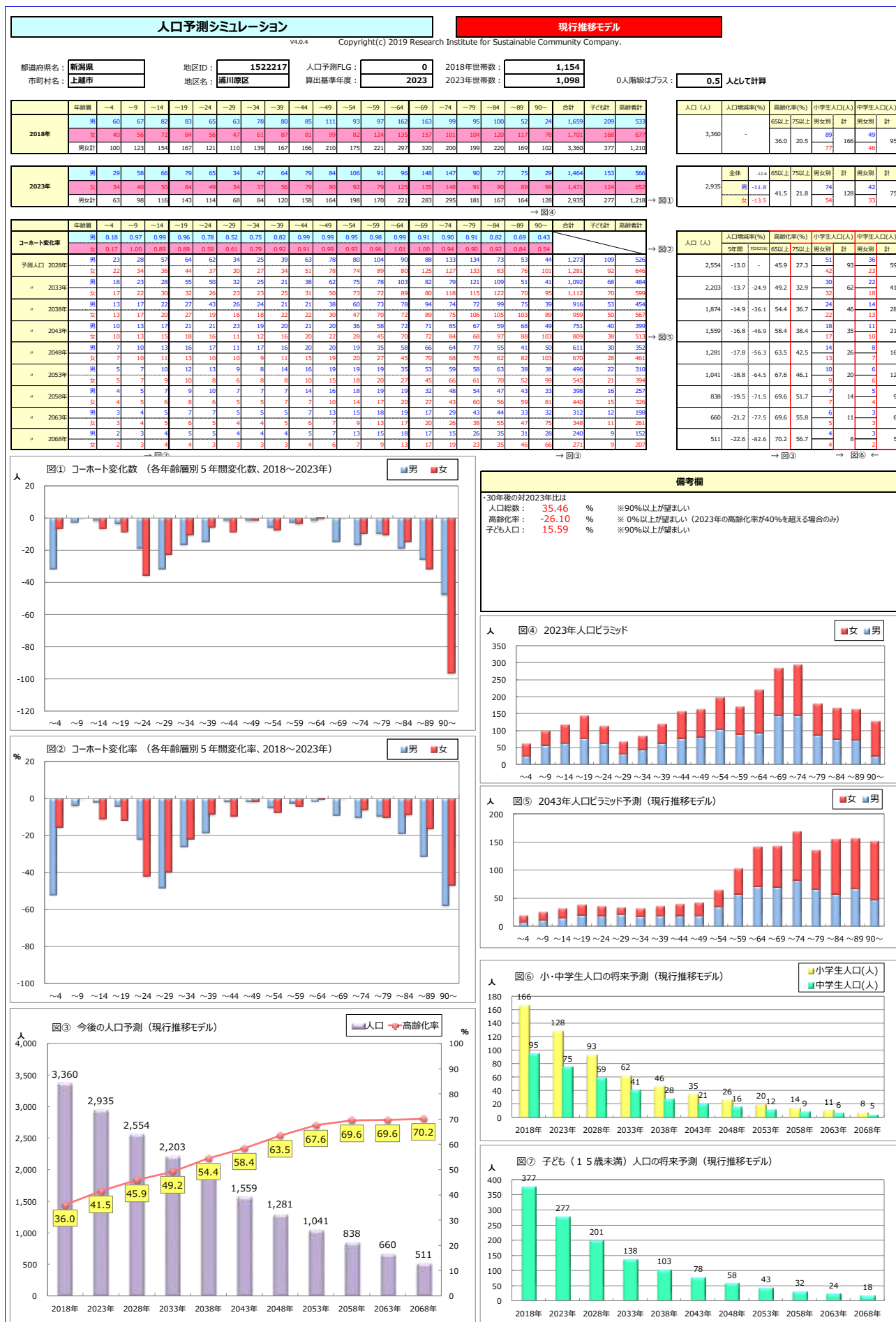
就業者(人)	就業率増減率(%)		高齢化率(%)		
	5年間	対2020比	65以上	75以上	
②	71	-33.1	-	90.5	58.5
	45	-36.9	-57.8	86.0	79.2
	24	-45.4	-77.0	77.0	65.5
	13	-47.1	-87.8	56.0	43.7
⑤	9	-28.3	-91.3	37.1	31.2
	8	-13.8	-92.5	37.2	17.3



備考欄

・30年後の対2020年比は
就業者総数：**7.53** % ※90%以上が望ましい





農業就業予測シミュレーション

現行推移モデル

Ver.2.4

Copyright(c) 2019 Research Institute for Sustainable Community Company.

県名: **新潟県**
市町村名: **上越市**

地区ID: **1522217**
地区名: **蒲川原区**

人口予測FLG: **0**
算出基準年度: **2020**

0人階級はプラス: **0.1** 人として計算

年齢層	15~	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	~69	~74	~79	~84	85~	合計	高齢者計
2015年 農業就業者	男	0	0	0	0	1	1	1	1	9	24	26	25	20	2	110	97
女	0	0	0	0	1	0	1	0	3	13	10	11	6	11	2	57	40
男女計	0	0	0	0	2	0	2	1	3	22	34	37	31	31	4	167	137

年齢層	15~	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	~69	~74	~79	~84	85~	合計	高齢者計
2020年 農業就業者	男	0	0	0	0	1	1	4	1	6	12	17	16	13	6	77	64
女	0	0	0	0	1	0	1	0	1	2	8	7	5	3	6	33	25
男女計	0	0	0	0	2	1	4	2	2	8	20	24	21	16	12	110	89

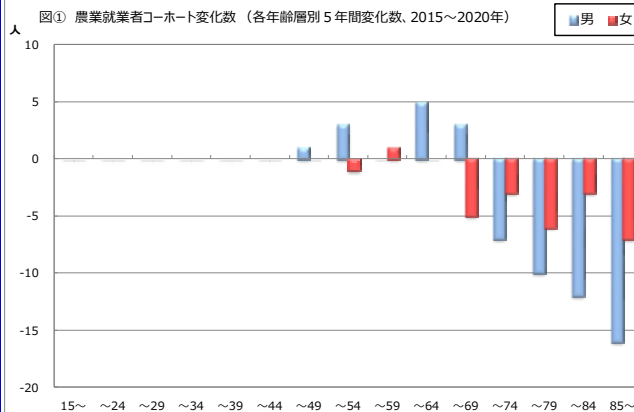
就業率(人)	就業率増減率(%)	高齢化率(%)
167	-	65以上 82.0 75以上 39.5

就業率(人)	就業率増減率(%)	高齢化率(%)
110	全体 -34.1 男 -30.0 女 -42.1	65以上 84.5 75以上 44.5

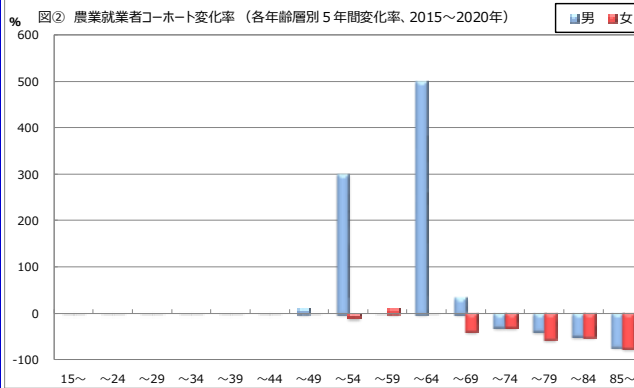
年齢層	15~	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	~69	~74	~79	~84	85~	合計	高齢者計
コホート変化率	男	0.01	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.10	4.00	1.00	6.00	1.33	0.71	0.62	0.52	0.29	
女	0.01	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.91	1.10	1.00	0.62	0.70	0.45	0.50	0.26		
予測人口 2025年	男	1	0	0	0	0	0	1	4	4	6	8	9	10	8	57	41
女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	6	3	2	18	15
" 2030年	男	1	1	0	0	0	0	0	4	4	24	8	6	5	5	62	28
女	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3	2	1	10	7
" 2035年	男	1	1	1	0	0	0	0	4	24	32	6	3	3	3	78	47
女	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	6	3
" 2040年	男	1	1	1	1	0	0	0	0	26	32	23	3	2	2	92	62
女	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	5	1
" 2045年	男	1	1	1	1	1	0	0	0	3	35	23	14	2	1	82	75
女	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	1
" 2050年	男	1	1	1	1	1	1	0	0	3	4	25	14	7	1	58	50
女	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1

②	就業者(人)	就業者増減率(%)		高齢化率(%)	
		5年期	対2020比	65以上	75以上
⑤	75	-31.7	-	74.0	43.0
	72	-4.0	-34.4	48.8	27.8
	84	16.6	-23.5	58.8	13.5
	97	15.3	-11.8	64.5	8.0
	87	-10.8	-21.3	87.3	19.7
	63	-27.3	-42.8	81.2	35.1

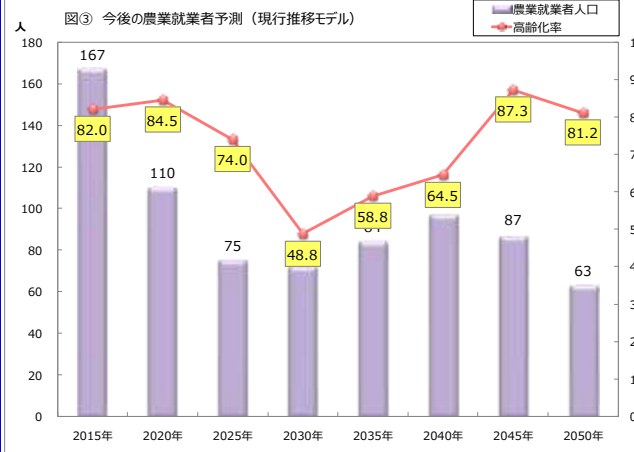
図① 農業就業者コホート変化数（各年齢層別5年間変化数、2015~2020年）



図② 農業就業者コホート変化率（各年齢層別5年間変化率、2015~2020年）



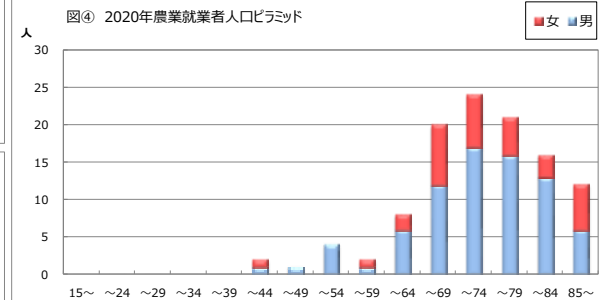
図③ 今後の農業就業者予測（現行推移モデル）



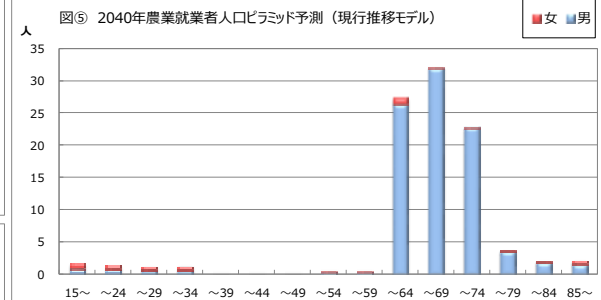
備考欄

30年後の対2020年比は
就業率総数: **57.19** % ※90%以上が望ましい

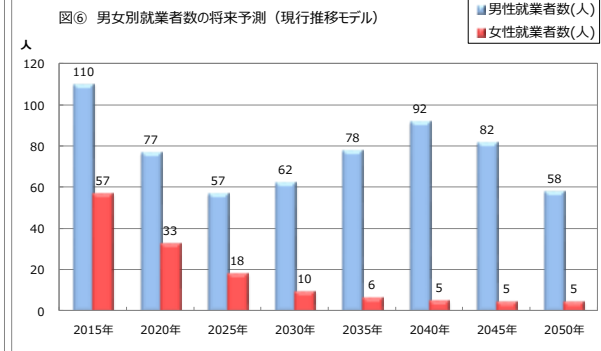
図④ 2020年農業就業者人口ピラミッド



図⑤ 2040年農業就業者人口ピラミッド予測（現行推移モデル）



図⑥ 男女別就業者数の将来予測（現行推移モデル）



農業就業予測シミュレーション

Ver.2.4

Copyright(c) 2019 Research Institute for Sustainable Community Company.

現行推移モデル

県名：**新潟県**
市町村名：**上越市**

地区ID：**1522219**
地区名：**牧区**

人口予測FLG：**0**
算出基準年度：**2020**

0人階級はプラス：**0.1** 人として計算

	年齢層	15～	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	～69	～74	～79	～84	85～	合計	高齢者計
2015年 農業就業者	男	0	1	0	0	0	1	2	1	3	8	28	28	28	19	2	121	10
	女	0	0	0	0	0	1	0	0	1	11	25	14	19	6	1	78	6
	男女計	0	1	0	0	0	2	2	1	4	19	53	42	47	25	3	199	17

年齢層	15～	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	～69	～74	～79	～84	85～	合計	高齢者計
2020年 農業就業者	男	0	0	0	0	0	1	5	4	11	17	22	12	13	2	87	66
女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7	19	8	8	0	43	42
男女計	0	0	0	0	0	0	1	5	5	11	24	41	20	21	2	130	108

就業者(人)	就業者増減率(%)	高齢化率(%)
199	-	65以上 75以上
		85.4 37.7

就業者(人)	就業者増減率(%)	高齢化率(%)
130	全体 -34.7	65以上 75以上
	男 -28.1	83.1 33.1
	女 -44.9	

年齢層	15～	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59	～64	～69	～74	～79	～84	85～	合計	高齢者計
コーホト変化率	男	0.01	1.00	0.91	1.00	1.00	1.00	2.50	4.00	3.67	2.13	0.79	0.43	0.46	0.29		
女	0.01	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.91	1.00	1.10	0.91	0.64	0.76	0.57	0.42	0.26		
予測人口 2025年	男	1	0	0	0	0	0	3	20	15	23	13	9	6	4	95	56
女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	11	3	2	24	22
" 2030年	男	1	1	0	0	0	0	0	10	73	31	18	6	4	3	149	62
女	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	5	1	12	10
" 2035年	男	2	1	1	1	0	0	0	1	37	156	24	8	3	2	235	193
女	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	8	8	3
" 2040年	男	2	2	1	1	0	0	0	1	4	78	122	10	4	1	226	216
女	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	1
" 2045年	男	1	2	2	1	1	0	0	1	4	8	61	52	5	1	139	128
女	1	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0
" 2050年	男	1	1	1	2	1	1	0	1	4	8	6	26	24	2	78	66
女	1	1	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0

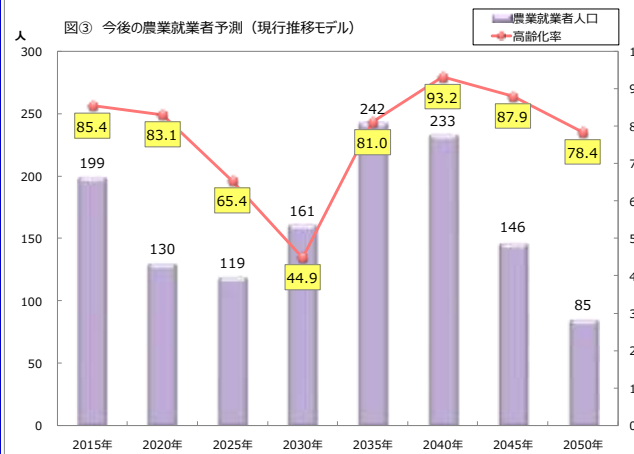
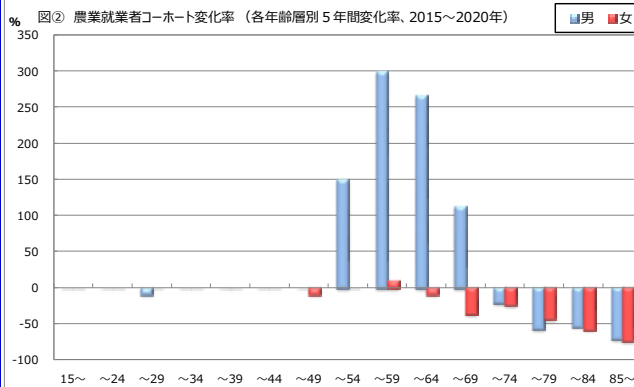
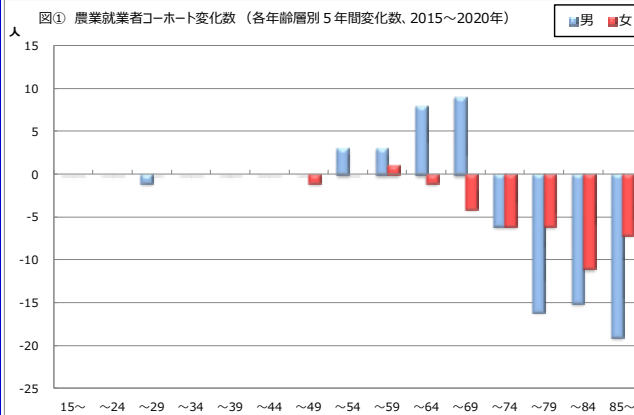
→ 図④

→ 図①

→ 図②

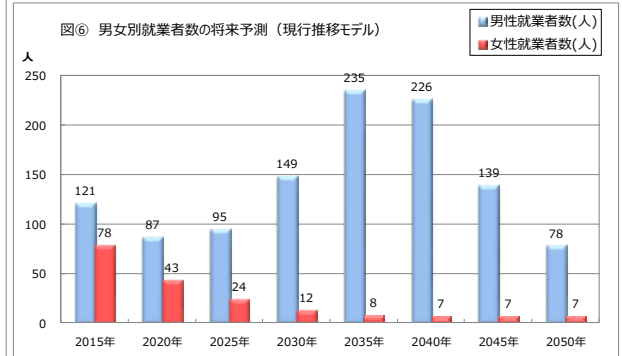
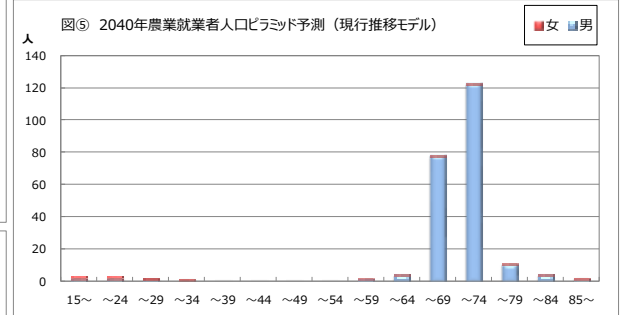
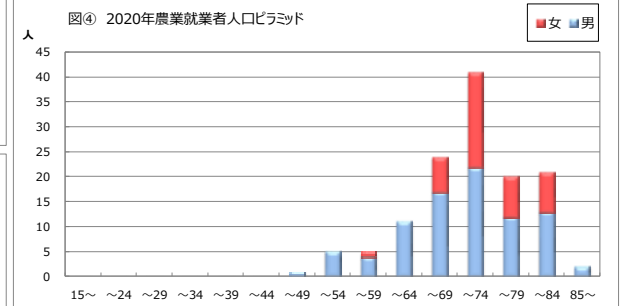
→ 図⑤

→ 図③



備考欄

・30年後の対2020年比は
就業者総数：**65.33** % ※90%以上が望ましい



令和 7 年度 板倉区における主な事業

R7当初(R6国補正含む)予算(単位:千円)

事業名・事業内容		所管課	事業費
1 地域独自の予算事業			
総務・地振	地域の課題を解決し、地域の活力の向上を図るため、各種団体や総合事務所が地域の実情に合った取組を行う。 ・板倉区 7事業 (①地域に残る伝説の紙芝居作成事業、②板倉の文化語り部継承とアーカイヴ事業、③YAWAYAWA MARKET itakura事業、④ベースキャンプin光ヶ原高原(光ヶ原高原活性化)事業、⑤いたくら里山彩花事業、⑥上越自転車まつり、⑦廃校を活用した交流の場創出事業)	文化振興課 地域政策課 観光振興課 スポーツ推進課	9,661 (補助金)
2 板倉区地域振興事業			
総務・地振	地域振興に資する事業等の実施を通じ、地域やコミュニティの活性化を図る。 ・板倉ふれあいまつり補助金 1,498千円 ・宮古島市交流事業補助金 863千円(地域間交流・児童交流) ・宮古島市交流事業職員旅費 806千円(地域間交流・児童交流)	地域政策課	3,167
3 地域集落支援事業			
総務・地振	「中山間地域の暮らしは、地域の支え合いで守る」ため、高齢化や人口減少、後継者・担い手不足により共同活動等の維持が困難となっている集落に対して、コミュニティ機能の強化を図り、住民同士や集落出身者等を活用した支え合いや自主的・自発的な地域づくり活動が継続的に行われるよう支援を行う。 ・集落づくり推進員 48,966千円(うち板倉区1人) ・地域おこし協力隊 75,618千円(うち板倉区2人 寺野地区(5/8まで)、筒方地区)	地域政策課	—
4 地域協議会費			
総務・地振	地域協議会の活動を通じて地域の課題に対してより良い解決策を導き出すとともに、地域住民の意見を市政に反映し、市民主体のまちづくりを推進する。 ・地域協議会の開催 219千円 ・地域協議会委員研修の実施 58千円 ・地域協議会だよりの発行 74千円	地域政策課	351
5 板倉コミュニティプラザ整備事業			
総務・地振	コミュニティプラザの機能や環境を維持するために必要な整備を行う。 ・板倉コミュニティプラザ照明LED化工事	地域政策課	41,030
6 中山間地域等活性化対策事業(中山間地域等直接支払交付金)			
産業	農業生産条件が不利な状況にある中山間地域において、農業生産の維持を図りつつ多面的機能を確保する観点から、中山間地域等直接支払交付金を活用し農地保全と担い手育成を推進することにより、中山間地域農業の振興を図る。また、集落を超えて連携し、地域の課題に取り組む地域マネジメント組織の活動を支援することにより、元気な農業・農村づくりを進める。 ・中山間地域直接支払 第6期対策の1年目 ・板倉区協定組織: 広域協定1組織(13支部) ・板倉区協定面積: 175.75ha	農政課	50,078
7 多面的機能支払交付金事業			
産業	地域共同による農地・農業用水等の資源の保全管理と農村環境の保全向上の取組を支援するとともに、農業用施設の補修・更新等による長寿命化の活動等を支援する。 ・板倉区対象面積: 847.03ha 19組織(農地維持)	農林水産整備課	64,899
8 県営ため池等整備事業(土地改良施設豪雨対策)針地区			
産業	自然的、社会的要因で生じた排水施設等の機能低下の回復や災害の未然防止を図るため、湛水防除による防災・減災対策を実施し、総合的な地域排水機能の強化を図る。 ・板倉区針地区(全体計画): 調整池工3箇所 排水路嵩上げ工 L=675m 令和7年度: 調整池の用地交渉、用地買収 県営事業負担金 8,000千円×13%=1,040千円	農林水産整備課	1,040 (負担金)

R7当初(R6国補正含む)予算(単位:千円)

事業名・事業内容		所管課	事業費
9 市営分収林整備、作業路開設			
産業	良質な地域産材の生産や温暖化防止、国土保全など、森林の持つ多面的機能の維持向上を図るため、除間伐等を実施し、適切な保育管理を推進する。 また市営分収林において、森林の健全性を確保するため、間伐を実施する。 ・板倉区別所団地：利用間伐 4.28ha、作業路開設 496m	農林水産整備課	8,943
10 観光施設等整備事業			
産業	板倉区の自然・史跡を活かした観光施設と関田山脈を縦断する信越トレイルなどを快適に利用できるよう維持管理を行い、安らぎと憩いの場を提供し市内外からの誘客促進を図る。 また光ヶ原高原に広がるブナ林や自然景観を活かすため、光ヶ原高原ファンクラブ等の関係団体と連携し、施設管理やイベントを行い、来場者の増加を図る。 ・板倉区観光施設 2,548千円 ・光ヶ原高原観光総合施設 2,816千円	観光振興課	5,364
11 観光施設等管理事業			
産業	快適に観光施設を利用できるよう、指定管理者制度により施設を管理・運営するとともに、施設の安全を確保するため、施設の定期検査や修繕等を行う。 ・指定管理委託(板倉保養センター 13,406千円、ゑしんの里記念館 16,928千円) ・修繕費等(板倉保養センター 5,689千円、ゑしんの里記念館 927千円)	観光振興課	36,950
12 観光振興対策事業			
産業	板倉区の観光資源のPR活動や観光施設の利用促進活動を実施する特定非営利活動法人板倉まちづくり振興会へ補助金を交付し、活動を支援する。	観光振興課	283
13 交通安全対策事業(R6国補正)			
建設	学校関係者及び関係機関等と実施した通学路の合同点検に基づき、改善工事を実施し、歩行者の安全確保を図る。 【工事概要】 ・市道小石原線 小石原地内 防護柵設置 L= 66m ・市道戸狩五反田線 戸狩地内 防護柵設置 L=113m ・市道針・東町線 針地内 側溝改良 L= 20m	道路課	8,550
14 道路維持費			
建設	道路舗装修繕計画に基づき、舗装修繕工事を行う。 【工事概要】 ・市道板倉中央線他 沢田他地内 舗装修繕 L=120m W=6.0m～7.0m	道路課	3,795
15 橋梁維持費(R6国補正含む)			
建設	橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁の損傷個所の適切な修繕を行い、施設の長寿命化を図る。 【工事概要】 ・別所川橋(戸狩松ノ木線) 稲増他地内 橋梁修繕 N=1式 ・無名橋466(山越谷内線) 山越地内 橋梁修繕 N=1式 ・沖橋(下長嶺稲増線) 戸狩地内 橋梁修繕 N=1式 ・針中江橋(針中江橋線) 針地内 橋梁修繕 N=1式 ・中江橋(山部火打田線) 熊川地内 橋梁修繕 N=1式 ・小熊川橋(山部線) 山部地内 橋梁修繕 N=1式 ・第一猿又川橋(上久々野猿供養寺線) 猿供養寺地内 橋梁修繕 N=1式 ・中江橋(高野砂田線) 高野地内 橋梁修繕 N=1式 ・中之宮橋(中之宮線) 中之宮地内 橋梁修繕 N=1式	道路課	65,679

R7当初(R6国補正含む)予算(単位:千円)

事業名・事業内容				所管課	事業費
16 災害防止対策事業(道路)					
建設	道路側溝改良等を実施し、災害の発生予防や被害の拡大防止を図る。 【工事概要】 ・市道筒方線 下関田地内 道路修繕 L=38m ・市道北ノ山線 栗沢地内 道路修繕 L=50m ・市道工業団地北部2号線 稲増地内 水路改良 L=97m ・市道工業団地北部2号線 稲増地内 側溝改良 L= 4m ・市道長塚・稲増線 稲増地内 側溝改良 L=14m ・市道戸狩・上川原線 稲増地内 側溝改良 L=13m ・市道板倉山手線 久々野地内 側溝改良 L=34m			道路課	21,455
17 災害防止対策事業(河川)					
建設	河川の護岸防止対策などを実施し、災害の発生予防を図る。 【工事概要】 ・城古川 久々野地内 護岸工 L=12m ・小熊川 山部地内 護岸工 L=66m ・大熊川 久々野地内 護岸工 L=15m ・二反田川 久々野地内 水路改良 L=40m ・濁川 関田地内 護岸工 L= 4m			河川海岸砂防課	17,343
18 消融雪施設管理費(R6国補正)					
建設	冬期間における安全な道路交通確保を図るため、消融雪施設整備計画に基づき計画的に消雪パイプ及び井戸の更新を行う。 【工事概要】 ・市道針曾根田線 針地内 消雪井戸更新工事 消雪井戸 N=1箇所			道路課 (雪対策室)	51,007
19 板倉区スクールバス等運行事業					
教文	児童生徒の通学支援のためスクールバスを運行し、遠距離通学する児童生徒の負担解消と安全確保を図る。 ・針小学校、宮嶋小学校、山部小学校の統合による遠距離通学となる児童の登下校及び板倉中学校に通う遠距離通学生徒の登下校手段確保のためスクールバスを運行 ・板倉小学校、豊原小学校、板倉中学校の校外学習等への有効活用運行 ・所有バスは、45人乗り (いすゞガーラmio) 2台 ・運行業務は、定期運行、臨時運行とし、業者委託により実施 ・スクールバス運行に係る委託料 11,308			学校教育課	16,358
20 宮古島市城辺交流事業 (児童交流)					
教文	板倉区稲増出身の中村十作氏が宮古島の人頭税廃止に尽力されたことを縁として、児童による夏・冬相互の宿泊交流を通じて両地域を結ぶ歴史を学び、風俗や文化の違いなどを体験し、両地域の一層の友好親善を深めるとともに、広い視野と郷土を愛する心を持った児童を育てる。 またこの交流は、人権教育の一環として、人々が平等であること、お互いに尊重し合うこと、そして人々が自分たちの権利を守ることができる社会を築くことにも貢献する。 ・宮古島市交流事業補助金 (児童交流)			地域政策課	526
21 板倉区公民館管理運営費					
教文	経年劣化により老朽化した板倉農村環境改善センターの高圧受電設備について交換工事を行う。 ・板倉農村環境改善センター高圧受電設備交換工事 一式 7,414			社会教育課	17,984

【新潟県上越市】廃校施設の利活用に関する サウンディング(民間対話)型市場調査実施要領



1 調査の目的

調査の目的は次のとおりです。

- 新潟県上越市では、公の施設が老朽化し多額の維持管理費が掛かる中、将来にわたり持続可能な市政運営を進めていくため、事務事業の見直しや経費の削減による歳出の抑制を図っています。また、市民ニーズや社会経済情勢の変化等に対応し得る安定した財源の確保並びに、将来的な財政負担を軽減するため、令和5年度から財務部に資産活用課を新設し、売却が可能な資産の処分に注力しているところです。
 - 少子化の影響で、全国では毎年450校が廃校になっています。上越市内の小中学校でも同様に廃校が増える中、一部で学校以外の行政用途への転用や民間事業者による利活用に取り組んできましたが、依然として未利用の廃校も多くあります。早期に廃校利活用を進め、財源の確保や将来的な財政負担を軽減すること等を主な目的として、サウンディング(民間対話)型市場調査(以下、「本調査」といいます。)を実施します。
 - 本調査の結果を踏まえ、令和7年度中に利活用希望者を募る予定としていますので、利活用策について、積極的なご意見、ご要望をお寄せくださいますようお願いいたします。
- ※ サウンディング(民間対話)型市場調査とは、公共施設等の活用について、処分方法検討の段階で、公募により民間事業者や市場の動向を調査することです。行政は市場性等を把握でき、民間事業者等にとっては、行政に対し、考え方等を直接伝えることができる等の利点があります。

2 調査の対象施設

本調査の対象施設は次のとおりです。以下の※以外は、「建物(校舎等)」及び「敷地」が調査対象です。

No.	学校名	所在地 (全て新潟県上越市)	閉校時期	避難所 指 定	選挙投票 所利用
1	旧古城小学校	港町二丁目588	R4年3月	あり	あり
2	旧沼木小学校	安塚区朴の木26	H5年3月	なし	なし
3	旧船倉小学校	安塚区上船倉804-1	H8年3月	なし	なし
4	旧安塚中学校	安塚区石橋6	R6年3月	あり	なし
5	旧末広小学校	浦川原区飯室934-1	H29年3月	あり	なし
6	旧中保倉小学校	浦川原区小谷島39-2	H29年3月	あり	なし
7	旧大島中学校	大島区上達600	R6年3月	なし	なし
8	旧黒岩小学校	柿崎区黒岩2454-3	H3年3月	なし	なし
9	旧源小学校	吉川区山直海801-1	H15年3月	なし	なし
10	旧宮嶋小学校	板倉区宮島180	R3年3月	あり	あり
11	旧山部小学校	板倉区山部253	R3年3月	なし	なし
12	旧寺野小学校	板倉区久々野2732-4	H17年3月	あり	なし
13	旧上杉小学校	三和区今保583	R7年3月	あり	あり (R8.3月までの予定)
14	旧美守小学校	三和区本郷688	R7年3月	あり	あり
15	旧下名立小学校	名立区杉野瀬9	H14年3月	なし	なし

※No.1 旧古城小学校 本調査の対象は「校舎」及び「敷地」であり、「体育館」は対象外です。「体育館」は引き続き選挙投票所として利用予定です。

※No.7 旧大島中学校 本調査の対象は「給食室を除く校舎」及び「敷地」です。「給食室」を大島学校給食センターとして一部利用中であり、他の用途で利用する場合は、給食室の出入口や電気、水道、浄化槽等の分離が必要です。

※No.9 旧源小学校 本調査の対象は「校舎」及び「敷地」であり、「体育館」は対象外です。現在、「体育館」は源生涯学習センターとして利用中です。なお、「校舎」には耐震性はなく、消防設備に修繕が必要です。

※No.11 旧山部小学校 本調査の対象は「校舎」及び「敷地」であり、「体育館」は対象外です。現在、「体育館」は地域の団体に貸付中です。

※No.13 旧上杉小学校 本調査の対象は「校舎(ランチルーム含む)」及び「敷地」です。現在、「ランチルーム」を選挙投票所として利用中ですが、R8年4月以降、選挙投票所は他の施設に移転する予定です。

3 調査の参加資格

本調査の参加資格は次のとおりです。

- 参加者は、対象施設の有効活用に当たり、自ら資金を用意し、実施主体となる意向を有する法人又は法人のグループ、それら法人又は法人グループへの仲介事業者とします。(上越市内、市外は問いません)
⇒なお、本調査は、市の財源確保や将来的な財政負担の軽減等を主な目的として
いることから、市に対し、公費を投じて廃校を利活用するよう求める提案をする
法人又はグループは、本調査の趣旨とは異なり、調査の参加対象ではありません。
- また、次のいずれかに該当する場合は除くものとします。

- (1) 上越市暴力団の排除の推進に関する条例に規定する暴力団若しくは暴力団員等
又は暴力団若しくは暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有するもの
- (2) 地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の4の規定により、一般
競争入札の参加を制限されているもの

4 調査の内容

本調査の内容は次のとおりです。以下の(1)～(9)のすべての項目について、利活用のアイデア等をお聞かせください。

- (1) 希望する物件番号(No.)、物件名
- (2) 利活用のアイデア
 - ・長期に渡り持続可能な事業で、地域の活性化にも寄与するアイデアを期待します。
 - ・施設全体を一括して活用することを基本としますが、施設一部の活用アイデアであってもお聞かせください。なお、その場合は、活用しない部分で、他の法人や団体等の活用を制限する必要がある場合は、あわせてお聞かせください。
 - ・一部廃校は、災害時の避難所や各種選挙の投票所となっています。避難所や投票所として継続利用が可能か、お聞かせください。
- (3) 希望する取引形態（譲渡(売買)、貸付け）
- (4) 譲渡(売買)及び貸付けにあたっての希望価格
- (5) 事業の想定スケジュール
- (6) 施設整備・改修等の内容(改修等を想定する場合)
- (7) 物件の活用の周辺地域への影響・効果について
- (8) 周辺地域への貢献や地域コミュニティとの関わり方に関する考え
- (9) 事業実施にあたり、市に期待する支援や、配慮してほしい事項等(金銭的支援は除く)

【 調査にあたっての留意点 】

- 本調査対象物件については、譲渡(売買)による取引形態を基本としますが、貸付を想定したご提案も受け付けさせていただきます。
- 本調査対象物件は、かつて地域の中心であった上越市立の小学校、中学校の廃校であり、地域と協議した上で、利活用方法を決定する予定です。
- なお、本調査は、市の財源確保や将来的な財政負担の軽減等を主な目的としていることから、市が事業実施主体となり、公費を投じて廃校を利活用するよう求める提案は本調査の趣旨とは異なり、本調査の対象とはなりませんので、ご留意ください。

5 スケジュール

スケジュールは次のとおりです。

1	実施要領の公表		令和7年4月4日(金)
2	説明会	参加申込受付期間	令和7年4月4日(金)～4月17日(木)正午
		実施日	令和7年4月23日(水) 14時～15時
3	現地見学会	参加申込受付期間	令和7年4月4日(金)～5月2日(金)正午
		実施日	廃校毎に実施します 1日目 令和7年5月9日(金) (廃校No.2旧沼木小、No.3旧船倉小、 No.4旧安塚中、No.5旧末広小、 No.6旧中保倉小、No.7旧大島中) 2日目 令和7年5月15日(木) (廃校No.10旧宮嶋小、No.11旧山部小、 No.12旧寺野小、No.13旧上杉小、 No.14旧美守小) 3日目 令和7年5月21日(水) (廃校No.1旧古城小、No.8旧黒岩小、 No.9旧源小、No.15旧下名立小)
4	市場調査	申込期限	令和7年6月4日(水)正午
		実施日等の通知	令和7年6月9日(月)頃
		調査の実施期間	令和7年6月11日(水)～6月30日(月) ※但し、土日は除く
5	調査結果概要の公表		令和7年7月(予定)

6 説明会

本調査にあたり、説明会を行います。

○ 開催概要

- ・ **開催日時** : 令和7年4月23日(水) 14時から15時まで
- ・ **会場** : 上越市役所 木田第一庁舎4階401会議室
(新潟県上越市木田1-1-3)
オンライン(zoom)でも同時開催します
- ・ **参加費** : 無料

< 申込方法 >

参加希望者は、次のとおり電子メールでお申し込みください。

- ・ **宛先** : shisan@city.joetsu.lg.jp
- ・ **メールの件名** : 市場調査の説明会参加申込み(法人等名称)
- ・ **記載事項** : (1) 担当者名、(2) 連絡先電話番号、(3) 説明会参加人数、
(4) 説明会参加者氏名、(5) 参加方法(会場参加またはオンライン参加の別) をご記入ください。
- ・ **申込期限** : 4月17日(木)正午

※説明会に参加されない場合でも、市場調査に参加いただけます。

7 現地見学会（廃校バスツアー）

廃校を巡る「現地見学会」(廃校バスツアー)を行います。利活用のイメージを具体化するため、実際に廃校をご覧ください。

○ 開催概要

- ・ **開催日** : 1日目 令和7年5月9日(金) (廃校No.2、3、4、5、6、7)
2日目 令和7年5月15日(木) (廃校No.10、11、12、13、14)
3日目 令和7年5月21日(水) (廃校No.1、8、9、15)
- ・ **時間** : バス出発時間 各日 8時50分
バス帰着時間 1日目 17時00分頃、2日目 15時20分頃、
3日目 15時45分頃
- ・ **集合時間、バス発着場所** : 各日午前8時45分 上越市役所 木田第一庁舎西口
(新潟県上越市木田1-1-3/
えちごトキめき鉄道妙高はねうまライン春日山駅徒歩3分)
- ・ **参加費** : 無料 (昼食代は各自負担です)

< 申込方法 >

参加希望者は、次のとおり電子メールでお申し込みください。

- ・ **宛先** : shisan@city.joetsu.lg.jp
- ・ **メールの件名** : 市場調査の現地見学会参加申込み(法人等名称)
- ・ **記載事項** : 現地見学会参加申込書に必要事項を記載したうえで、メールに添付してください。
- ・ **申込期限** : 5月2日(金)正午

※現地見学会に参加されない場合でも、市場調査に参加いただけます。

8 サウンディング（民間対話）型市場調査

本調査は次のとおりです。

○ 実施概要

- ・ 実施期間：令和7年6月11日(水)～6月30日(月)
- ・ 時間及び場所：別途、市から参加希望者に対し連絡します。
- ・ 所要時間：30～60分程度／1法人当たり
- ・ 調査方法：市場調査は、申込みに当たって事前に提出いただくエントリーシート(*)をもとに、個別に聞き取り調査を行います。
その他、ご提案の内容に応じて、事業スケジュールや資金計画などについても聞き取りを行います。
* 上越市ホームページからダウンロードしてください。
- ・ その他：説明の補足等で別途資料を作成する場合は、5部を当日持参ください。
オンライン(Zoom)による対話調査も可能です。

< 申込方法 >

参加希望者は、次のとおり電子メールでお申し込みください。

- ・ 宛先：shisan@city.joetsu.lg.jp
- ・ メールの件名：廃校利活用市場調査の参加申込み(法人等名称)
- ・ 添付事項：エントリーシートに必要事項を記載したうえで、メールに添付してください。
- ・ 申込期限：令和7年6月4日(水)正午

9 調査結果概要の公表

- 調査結果は、市ホームページ等で概要を公表します。
- ただし、公表内容については、事前に参加者に確認します。
- 参加者の名称、企業ノウハウ等に関する内容及びp3「4 調査の内容(4)譲渡や貸付けにあたっての希望価格」は公表しません。

10 調査の留意事項

調査の留意事項は次のとおりです。

(1) 参加者及び調査内容の取扱い

本調査への参加実績は、今後、本調査の結果を踏まえ、物件の有効活用を図る事業者選定を行うことにした場合において、評価の対象とはなりません。

また、提案内容は、今後の検討における参考とさせていただくものであり、提案内容の実現を約束するものではないことをご理解ください。

(2) 市有財産処分に係る法規制

原則として、市有財産処分に当たっては、関係法規で「適正価格」による譲渡、貸付けであることが規定されています。

(3) 費用負担

説明会や現地見学会、本調査への参加、資料作成に要する費用は、参加者の負担となります。

(4) 追加調査への協力

本調査終了後も、必要に応じて追加の調査(文書照会を含む。)やアンケート等を実施させていただくことがありますので、ご協力をお願いいたします。

11 その他

○ 本調査の実施時期以外でも、利活用の提案があれば、受け付けいたします。

○ 調査について、ご不明な点などがございましたら、下記担当までお問い合わせください。

【問合せ先】

上越市 財務部 資産活用課 資産活用係
住 所 〒943-8601 新潟県上越市木田一丁目1番3号
電 話 025-520-5642(直通)
メール shisan@city.joetsu.lg.jp



上越市
JOETSU CITY